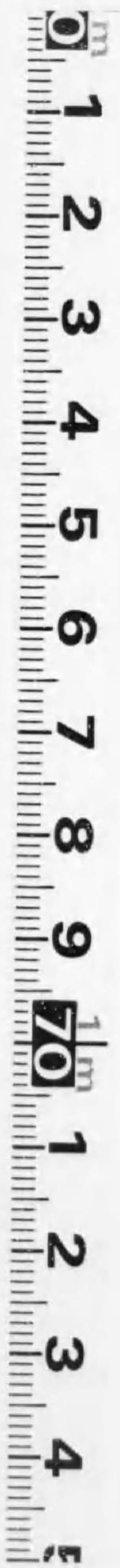


522
25
176



始

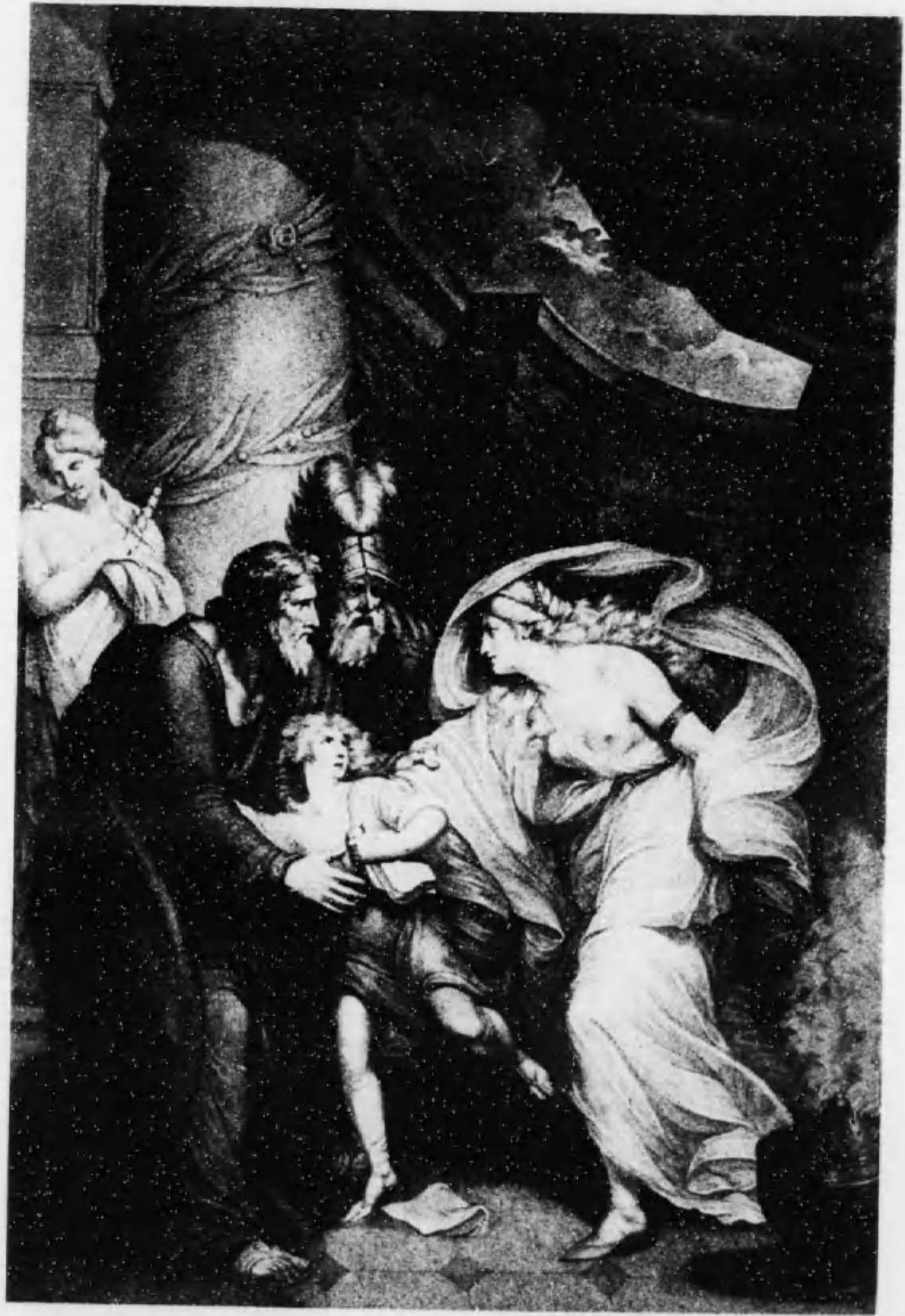




タイタス
アンドロニカス

坪内逍遙
譯 正

15. 9. 9
内交



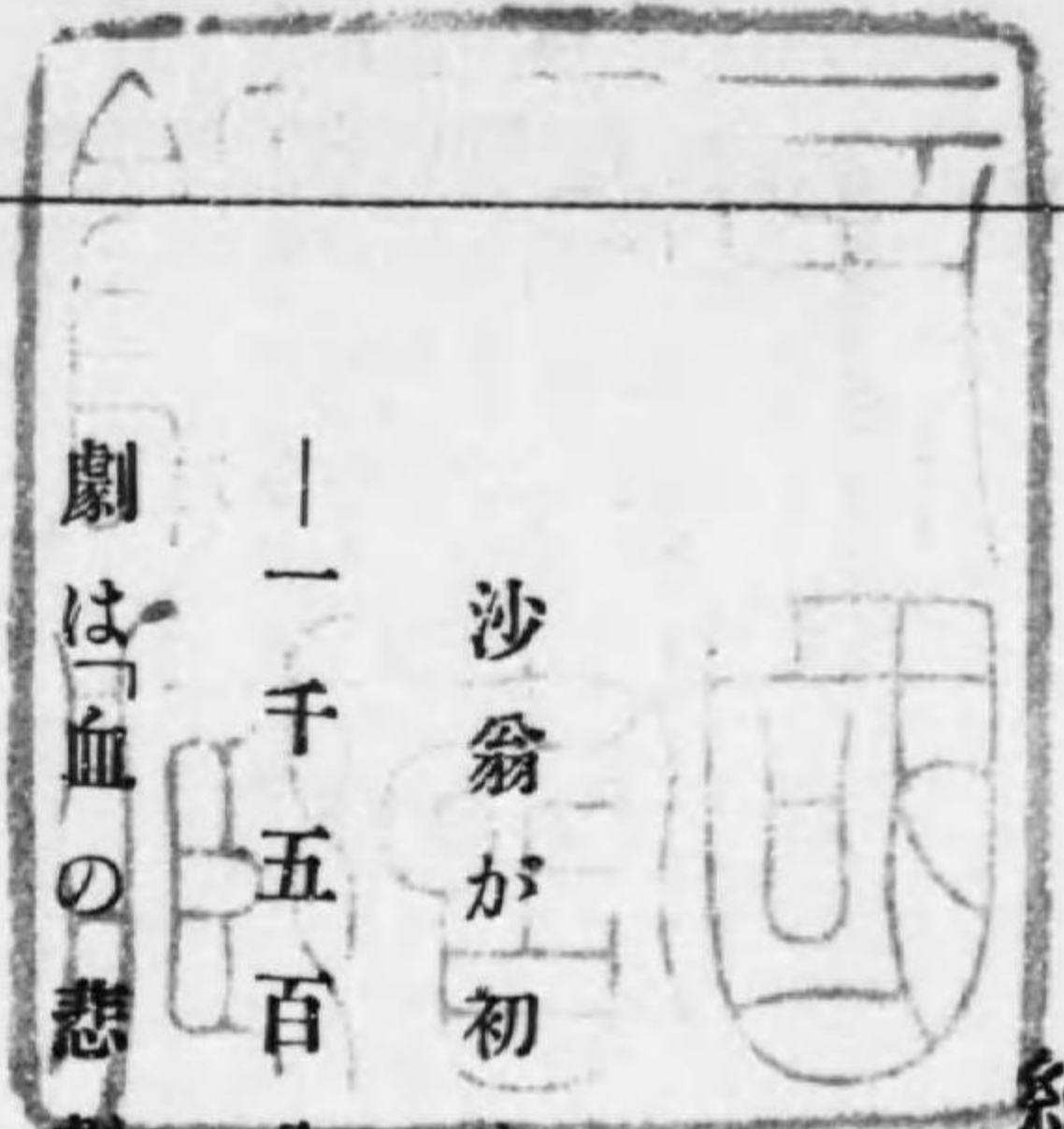
From the printing by Thomas Kirk

Titus Andronicus.

Young Lucius Feeling from his Aunt, Lavinia

Boy: "He'p, grandshire, he'p! my aunt Lavinia
Follows me everywhere, I know not why."

522176



緒言

沙翁が初めてロンドンの劇場に關係した前後に於て——
 一千五百八十九年度——盛んに民衆に歡迎されてゐた
 劇は「血の悲劇」と概稱される慘酷を極めた一種の戯曲で
 あつた。其第一の標本は、當時の流行作家トマス・キッドの書
 いた「スパニッシュ・トラヂエディー」であつたが、それに次いで有名で
 あつたのが、此「タイタス・アンドロニカス」であつた。いや、慘酷、

緒言

無慚といふ内容からいふと、後者のほうが前者を凌いでゐるといつてよい。つまり、後に出た作だけに一段のあくどさが加へられたのであらう。血の悲劇の流行は、沙翁が私淑した作家マローの死ぬ頃までは續いた。沙翁の傑作の「ハムレット」や「マクベス」又は「リヤ王」とても、大詩人の想火で昇華されて、まるで別物となつてはゐるが、其實は、右の「血の悲劇」の苗裔たるに外ならぬのである。

本篇に關しては、今尙ほ沙翁學者間に異論が一決せない。或ひは、之れを沙翁の作中に加へない學者もある。それは、よし此作は、通例推定される如く、作者がまだ二十

五歳頃即ち修業初期の習作——悲劇の處女作——であるとしても、又、種々の證左があつて推定し得らるゝ如く、座主の吩咐によつて、匆卒に或前人の作を改修したに外ならぬものとしても、其内容が餘りに沙翁らしくない、いかに何でも斯んな *chaotic muddle of melodramatic horrors* (わけのわからぬ、滅茶苦茶な、只もう怖ろしい事づくめのメロドラマ) を後に大詩人となつた彼れが甘んじて書く筈はないといふのである。作意が一へに残忍の一點張で表面的の舞臺効果のみを主としてある上に、脚色も修辭も不手際であり、不自然でもあり、全篇を貫く詩趣にも倫理的調子にも

何等沙翁らしい影が暗示されてゐないといふのである。さう頭あたまから排斥してかゝる一派に對して、ともかくも其幾分を又は大體を沙翁の筆だと見る反對派がある。其中には、マローカピールかキドかの舊作であつたものに、見習ひ時代の沙翁が興行主の吩咐に餘儀なくされて、新代の好みに適ふやうに咄嗟の改修を加へたのだらうと推論する人々と、第五流位(一)の無名の凡作家の書いたものに、彼れが、進まぬながら、やはり、急場の興行用として、一通り筆を加へたに過ぎないものだらうといふのと、更に又、「いや、沙翁とても、まだ筆馴れなかつた血氣盛り、

客氣盛りの修業期には、随分一時の人気受けを覘つて、斯ういふ類ひの作もしかねなかつたであらう。近年の調査によれば、此作以前に、二種の類似作のあつたことは明かである。一は“Titus Andronicus”（チッタス・アンドロニカス）といひ、一は“Titus and Vespasian”（タイタスとエスバシヤン）といつた。多分沙翁は其どちらかを、又は二者を合せて改作すべく命ぜられたのであつたらう。いづれにしても、同時代の著述家のミーヤズが、現に其著「智慧の庫」(前譯「間違ひ續き」の緒言参照)に之れを沙翁作と明言してもをり、且つ例の一六二三年の全集中にも沙翁の同僚であつた俳優らが麗々と

収載してゐる所から見ても、彼れの作でないとは言へない、といふ論者がある。

ところで、是等諸派の説を要約して紹介すると同時に、之を沙翁の作とするに力を籠めた最近の一論文は、アーデン版の本篇の註釋者 H. B. Bailton 氏のそれである。譯者も、大體に於て、ペイルドン氏に左袒する者であるのだが、ドイツの立派な沙翁學者でさへ、かういふ問題に關しては、いつもイギリスの専門家に鼻であしらはれる例であり、現に本篇に就いても、シュレーゲル、ゲルギナス、ウルリチーらのドイツ諸家は、大抵皆沙翁の書いたものだと思つてゐる。

のであるが、やはり、等閑視されてゐる氣味である。さういふ次第だから、自分は、僭越を憚つて、卑見は悉くさし控へておく。

此作の書きおろしをペイルドン氏は一五八九年から一五九三年まで——即ち作者の二十五歳から二十九歳まで——と推定してゐるが、クロウフォードの如く九三年以後九四年前とする論者もあり、ダウデンの如く一五八八年後同九〇年前とする學者もあつて、さまざまである。

傳存した本作の最古版は一六〇〇年の四折本である。

が、一五九四年にも既に一度（著者の名は録されなかつたが）刊行されたといふ記録があるさうな。但し其版は傳はつてゐない。一六〇〇年の四折本の題扉は次ぎの如くである。

「タイタス・アンドロニカスの最も悼ましきローマ悲劇。ダー

ビー伯、サセックス伯及びロオド・チャンバレイン閣下の御家來衆によりて屢上演されたるを其儘。 ロンドンにて。

エドワード・ホワイトの爲に印刷並びにホールズの小さき北口の店にて發賣。 招牌は砲^{ガン}。 一六〇〇年。」

ロンドンに於ける最古の劇場の一にザ・ローズ・シャター（薔薇

座)といふのがあつた。該座は一五九三年十二月末から翌年二月初旬まではサセックス伯の家來格の俳優の所有であつたが、其俳優らが一五九四年一月二十三日に「タイタス・アンドロニカス」といふ劇を上演したといふことがラングベインといふ者の著した“*Account of the English Dramatick Poets*”（英國の劇詩人に關する事蹟）中に見えてをり、さうしてそれは多分沙翁の本作を指したものであらうと推定されてゐるから、上演としては是れが最初でもあらう。其次ぎは一五九四年二月六日で、それは當時の文房具商の帳簿に記録されてあるといふ。是等上演は何れも大成功であ

つたらしい。併し「血の悲劇」の流行が衰へたと共に、此作の人氣も衰へたと見えて、其後には更に所見がない。一六七八年に至つて、エドワード・レーヴンスクロフトといふ者が「タイタス・アンドロニカス」又の外題「ラギニヤの辱め」(The Rape of Lucrece)をザ・シャター・ロイヤルで上演したが、これは沙翁の本作をほしいまゝに添削したもので、原作とは大きに面目を異にしたものであつた上に、残忍さは一段甚しくなつた悪作であつた。それにも拘らず、それが刊本となつて行はれ、復辟期^{リストレリション}までは、常に實演出とされてゐた。一七一七年と同二一年とに、前後二回、ドルーリー・レーンで最後の復演があ

つたが、これとても沙翁の原作通りではなかつたといふ。それから以後は例のペンソン一座でさへも上場したことがなく、全く捨てられてしまつた。いふまでもなく、其内容が現代人の鑑賞に適せないからである。

とはいへ、南北、黙阿彌らの血の悲劇を今も尙ほ頻りに歓迎し、又所謂劍劇の随分甚しい惨酷にも盡きせぬ感興を覚えつゝある我民衆の如きは、三百數十年前の此作に對して、或ひは一種不思議な同氣^{コンヂニヤリチ}相求を感ずるでもあらう。按ふに、「タイタス・アンドロニカス」程度の残忍や無慚や不自

然や毒々しきは「繪本合法ヶ衢」や「四谷恠談」や「龜山仇討」や「殿下茶屋聚」や「小幡小平次」等を平氣で鑑賞して來た民衆に取つては、敢て目を側そばてるに足らぬものであらう。といふのは、よしんば慘酷さだけは双方相匹敵してゐるとしても、或ひは又、其規模の雄大と作意の深刻味とに於ては、幾分か沙翁の方が優つてゐるとなすべくも、脚色の巧緻や科白の寫實味や舞臺に於ける表現の生々なましさ、毒々しさに至つては、わが歌舞伎は遙かに英國當時の劇を凌いでをり、彼れの演出法や舞臺効果は、逆も比べ物にならぬほど幼稚であつたからである。例へば、本作中の最も

慘酷を極めた事件は、序幕に於ける捕虜王子アラバスの生きながらの火炙りや第二幕のラギニヤ女が辱められた上に舌を切られ、左右の手首を切り落される條なぞであるのだが、それらは皆舞臺蔭の事件となつてをり、且つたかゞ口邊又は被服に只暗示程度の紅べにを點するに過ぎなかつたのだから、夥しく糊紅のりべにを使ひ、ふんだんに蘇芳汁を滴したらした大南北や三世如阜や三世治助や默阿彌らの作とは標準を同じくして批判さるべきものではない。エリザ劇の演出はわが舊劇に比べて、遙かに簡粗でもあり、非寫實的でもあつたからである。本篇を讀むには、特に

此事を念頭に置く必要がある。

此作の作意には、多くの無理と不自然がある。うら若い女が辱められ、舌を切られ、剩へ兩手の手首を切り落されて、それで尙ほ死にもせず、氣絶さへもせないで、叔父に逢つた途端に、恥ぢて逃げようとするなどは、逆も有るまじき事としか思へない。又、毒婦タモーラが其二子と共に冥府から來た復讐神に假裝して本篇の主人公タイタス・アンドロニカスを欺かうとする條の如きも、餘り兒戲的で馬鹿々々しく、わが古淨るりの作者さへも或ひは採用に躊

躇すべき筋である。勿論、それはアンドロニカスを狂人と信じてのわざくれではあるが、前後の事情を讀み味はつて見ると、舞臺上の只一應の効果の爲と筋の運びの爲に、さう仕組んだに過ぎぬらしく、いかにも不細工である。或ひは又、タイタスが復讐のために、タモーラの二子を殺し、其肉を肉饅頭に製して彼女に食はしめる件の如きも、其饅頭を血で捏ねる、云前に々と言はせてあるだけに、それを食ひながら聊かも心附かないといふことが、どうやら無理に思はれる。其他、これに類することが他にもまだ多少ある。畢竟、沙翁學者らが此作を沙翁の作でない主張

するのは、主として作柄の蠻的であるのを忌避するが爲であるが、二つには是等不自然な作意の拙劣さを彼等の尊崇する大詩人に歸するに忍びないのであらう。けれども凡て劇の存在は、其時代の傳統トラディションと慣例コンベンションに依るのが例である。按ふに、此作は、言ひ傳へられた如く、多分舊作の改修であつたらう、随つて大體の筋は其舊作と殆ど同一であつたらう。又、是等不自然な諸點が或ひは最も喜ばれた眼目の見せ場でもあつて、此作としては、取除くわけにいかなかつたのでもあつたらう。殊に、——本文の註として一寸書き添へておいた如く、——辱められて舌を切ら

れ、それにも拘らず命を保つて、残忍な復讐をした話は、夙にオギッドによつて普く傳へられてゐたのだから、當時の見物は敢てそれを有り得べからざる事とも思はなかつたのであらう。次ぎに、變装によつて、極めて親しい者の認識をさへ誤らしめる例は、當時の劇一般の常套であつて、後の沙翁作にも其甚しい例がいくらかもある。「ゼニスゼニスの商人」のポオシヤが其昨今逢つたばかりの情郎のバッサニオバッサニオにさへも認識されないなどが其一例である。要するに、わが古歌舞伎や外國のロマンス劇などは、後の自然主義其他の標準などに依つて律すべきものではない。

つい今、此作の脚色、其他を南北、默阿彌らに比べて遙かに粗雑であり、幼稚であるやうにいつたが、沙翁の筆としては悪作でもあり、悪趣味であるにも拘らず、さすがに規模が大きく、多少の深刻味もあり、其世界も大きく、其人物も大きく、全體の調子も相應に高い。臺詞中にも、處々、わが狂言作者輩では逆も企て及ばない美辭がある。比較的人間らしく描かれてあるのは主人公タイタスと其弟のマーカス位のだが、殊に前者は力強く表現されてゐる。毒婦タモーラと黒人の悪漢アーロンは、人間としてよりも舞臺效果の爲の敵役かたきとして作られた氣味ではあるが、それで

も其徹底した悪性格たるの點に於て、さすがにわが歌舞伎や草双紙のそれよりも、何となく大陸的な大きさを有つてゐる。この點も比較研究資料として興がある。例へば「合法ヶ衢」の太平次や左枝大學とアーロンを比べて見るなど。併しながら、寧ろアーロンの如きは、沙翁の後の諸作に現れる悪漢、「オセロー」のイヤゴー、「リチャード三世」のリチャード、「リヤ王」のエドモンド等と相對照するに及んで、更に一層得る所が多いであらう、當時の作劇標準なり、技術なりが、僅か十年足らずの間に、如何に著しく進んだか、之れに依つて窺ひ知られるからである。

大正十五年七月三日

余丁町に於て

譯者識

登場人名

サタアナイナス、前のローマ帝の長子、後に帝位に登る。

(此作中では、帝の事を時々「王」と呼び、又時としては「御前」とも呼び、「陛下」とか「皇帝」とかいふ風に鄭重にも呼び、一定してゐない。譯も大抵原文に準じておいた。)

バッシエーナス、サタアナイナスの弟、ラゴニヤの情人。

タイタス・アンドロニカス、ローマの一貴族、ゴッス族征討の

將軍。

マーカス・アンドロニカス、タイタスの弟、護民官。

ルーシヤス

クインタス

マーシヤス

ミューシヤス

いづれもタイタス・アンドロニカスの男。

少年ルーシヤス、ルーシヤスの男。

バプリアス、マークス・アンドロニカスの男。

セムプロニヤス

ケイヤス

ヴレンタイン

タイタスの親族。

イーミリヤス、ローマの一貴族。

アラーバス

デミトリヤス いづれも妃タモーラの男。

カイロン

アーロン、ムーア(黒人)、タモーラの情夫。

一將校、一護民官、一使者、一道化役(農夫)、ゴッスの貴族、並びにローマの民衆等。

タモーラ、ゴッスの王妃、後にローマ帝の後。

(後の事も、原文では、時としては妃と呼ばせてある。つまり、帝と王を當時の舞臺では餘り嚴重に區別せなかつたのである。)

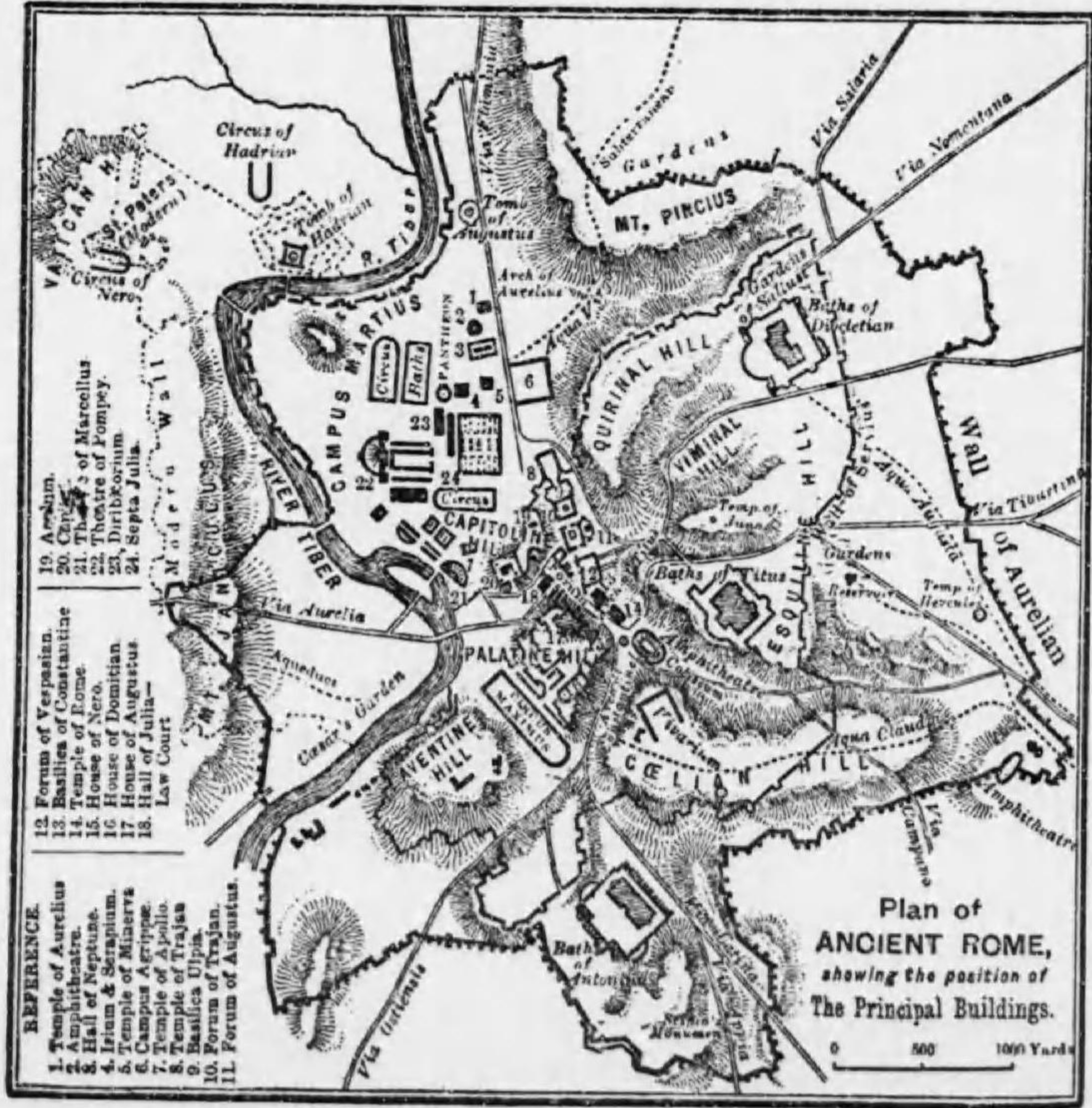
登場人名

ラギニヤ、
乳母並びに黒人の赤児。
タイタス・アンドロニカスの女。

其他、元老議官ら、護民官ら、役員ら、兵士ら、侍者ら。

場所
ローマ及び其附近の地。

登場人名





タイタス・アンドロニカス

第一幕

第一場 ローマ

向うに、アンドロニカス家の墓所が見えてゐる。多勢の護民官と多勢の元老議員が高二重へ出る。と平舞臺の一方からは、前のローマ帝の長子サタアライナスが其黨與をひきぬて出る。同時に、他の方から

は、其弟のバッシエーナスが同じく其黨人をひきぬて出る。双方とも軍鼓手や旗手を従へ、悉く武装してゐる。

サタア

貴族たちよ、わが権利の保護者たちよ、兵力によつてわたしの正義を擁護して下さい、剣を以てわたしの相續權を辯護して下さい。自分は、此間まで此ローマの帝冠を戴いてゐた君主の長男であるのだから、父の榮爵は其儘繼承させて貰ひたい。どうか年長者たる者に恥辱を與へないやうにして下さい。

バッシ

ローマ人よ、親友達よ、黨人よ、わたしの権利を愛護しくれらるゝ諸君よ、若し前帝の子たる此バッシエーナスを以てローマ國の爲に不快ならざる者とせらるゝならば、大神殿(政堂)に到る此道路を固く守つて、假にも汚辱をして美德、正義、節慾、高潔にのみ獻げらるべき帝座に返づかしめないやうにして下さい。いや、専ら自由なる選舉に依つて眞の有徳者を推選なさ

い。ローマ人よ、選舉の自由の爲に戦ふことをお忘れなさるな。

此時、護民官マーカス・アンドロニカスが帝冠を捧げて高二重へ出る。

マーカ

皇子たちよ、帝冠を得んとて、黨を組み、身方を集めて、相争はるゝ兩皇子よ、自分らが特に代表しをる所のローマ市民一同は、新ローマ帝の候補として、多年、國家に對して大功績があつて、愛國者ときへ綽名さるゝタイタス・アンドロニカスを推選しました。今や此市壁内に、彼れに勝る高潔な人物、勇敢な士はをりません。彼れは、其子息らを率ゐて、既に久しく蠻族ゴッスの征討に従事し、常に敵の恐怖となつて、遂に之を服従せしむるに到りました際、恰も元老院より特使を派して、急ぎ召還に及んだのであります。彼れがローマの爲に外征して、驕敵の庸慾に従事して以來、もう既に十年になります。其勇敢な倅共の柩を戰場から擔ぎ荷はせ、鮮血

にまみれつゝ、ローマへ歸つて參つたことも既に五回に及びます。今や彼れタイタス・アンドロニカスは凱旋の功を全うし、名譽の戦利品を山積し、武名噴々の將軍として、歸り來るのであります。彼れの榮譽は當然お二方が繼承すべく希望なさるべき筈のものであります。吾々は彼れの其榮譽により、又、お二方が尊崇なさるべき筈の大神殿及び元老院の威權によつて、お二方に懇請します。須らく御退讓あつて、武力を減じ、黨人を散じ、平和に且つ謙虚に、各自の御權利を御主張あるやうにいたしたい。

サタア

パッシ

護民官のいはれることは至極もつともだから、敢て異議は言はない。マールカス・アンドロニカス、わたしは君の正廉鯁直を信じ、また君並びに君の近親たちを愛してゐる、君の高潔な令兄タイタスどのはじめ其息子たちを愛してゐる、特に其女さんの可憐なラギニヤに至つては、ローマの盛飾たとまで愛敬してゐる。だから、今すぐにわたしの愛友らを解散しま

す、さうして自分の主張が、比較上どういふことにならうとも、それは運と民意とに一任することにします。

パッシエーナスの黨人らは皆入る。

サタア

(其黨人らに) わたしの權利のために熱衷してくれられた親友たち、わたしは改めて諸君に禮をいつて解散します、さうして此身をも其主張をも、一切之れを國民の愛と好意とに一任することにします。...

サタアナイナスの黨人らも皆入る。

ローマよ、おれはおまひを信じもし、且つ好意をも持つてゐる。どうか、おまひも、おれに對して公正であり且つ深切であつてくれ。さ、市門を開いて、わたしを入れてくれ。

パッシ

護民官たち、わたしをも入れて下さい、哀れな一競争者だ。

喇叭盛奏。一同は元老院へと進み行く。

此時、一將校出る。

將校　ローマ人よ、道をお明けなさい！　美德の擁護者たりローマ最善の戦士たるアンドロニカスどのが、其戦役に成功して、劍によつてローマの仇敵を克服し、之を輓に繫縛せられましたる地方から、名譽と好運とを齎して、只今凱旋せられまする。

軍鼓の音、喇叭の聲。と先づ、タイタスの男、マーシヤスとミューシヤスが武裝て出る。ついで二人の卒が黒布で以て蔽つた柩を擔いで出る。その後から同じくタイタスの男のルーシヤスとグインタスが出る。次に、タイタス・アンドロニカスが出る。そのあとについでゴッス國の王妃タモイラが其男アラバス、同テミトリヤス、同カイロン、其従僕の黒人アロン及び其他のゴッスらが、いづれも捕虜の體で出る。次に、多勢の兵士、民衆が出る。

タイタ

柩を地上におろすと、タイタスが口を開く。

わが喪服によつて大勝利を得たるローマ帝國よ！　めでたう！　見よ！　彼の荷揚げを終つたる大商船が最初に拔錨したる其港へ貴重なる貨物を満載して歸り來るが如くに、アンドロニカスは、月桂樹の枝で頭を圍まれて歸國いたしたぞ、再び祖國ローマに、涙を以て、眞の喜びの涙を以て歸着の挨拶を申し述べべく。お、爾、大神殿の大いなる擁護者（ジュピタ）よ、われらの將に行はんとする儀式に冥加あらせたまへ！……ローマの人々よ、かのブライヤム（トロイ王）のそれに比ぶれば、其半數の、勇敢な倅ら二十六人のうち、（と四人の倅らを見返つて）此貧小な四人が残り、其他は悉く戦死したのです。此等生存者には褒美として愛を下されたい。又、これら（と柩へ思入して）最終の宿りへと伴ひ歸つた者共には、其祖先と共に埋葬さるゝの榮譽を與へて下されたい。あゝ、やつとゴッスめが自分をして

劍を鞘に收めしめる日と相成つた。タイタスよ、いかに汝が己れの身の事に無頓着であるにもせよ、戦死した倅共を今なほ埋葬もせんで、彼等の靈魂を冥府河のあの怖ろしい岸頭に彷徨はせておくのは酷いではないか？ さ、さ、墓を開いて、彼等を其同胞の傍へ。

これにて、墓所の扉が開かれる。卒が柩を其傍らへ運ぶ。

(柩に向つて) 亡者の慣はし通りに、無言で挨拶をしあつて、平和の眠りに就け、國の爲の戦死者よ！(墓に向つて) お、おれの最愛の物の容れ所よ、美德と高潔とを藏めた懐かしい窠よ、汝は廿人にも餘るおれの倅をそこに持つてゐながら、其うちの只の一人をも返してはくれんのか？

ルーシ

(父に向つて) ゴッスの捕虜のうちで、一等身分の高いやつを引渡して下さい、そいつの手足を斫つて、兄弟たちの遺骨を収める此土牢の前で、火あぶりにして、彼等の靈に獻げたいですから。さうせないといふ亡靈の怨みが晴れま

タイタ

せんから、いつまでも怪異に悩まされなければならぬ。おや、生存者のうちで、一等身分の高い、あの歎いてゐる王妃の長男をやらう。

タモラ

(駭いて) ま、まつて下さい、ローマの人たち！ 慈悲深い勝利者のタイタスとの子の爲に流す母親の悲歎の涙を憫れんで下さい。自身の息子たちを曾て可愛いと思つたことがあるなら、お、わしの子とても同様だと思ひやつて下さい！ われ、母子が面縛され、捕虜となつて、おまへさんの凱旋を飾るべく、此ローマへ連れて來られたゞけで、もう澤山である筈なのに、國の爲に勇敢な働きをした倅らまでが街の中で殺されなければならぬのか？ お、王のために、公共のために戦ふのが、おまへさんたちの道であるなら、わたしたちに取つても其通りぢや。アンドロニカスよ、血で其墓を汚しなさんな。かりにも神々の御本性に倣ひたい心があるなら、先

づ其お慈悲に倣ひなさい。やさしい、なつかしい慈悲の徳は氣高きの本當の標章です。氣高いタイタスどの、長男の命を助けて下さい。

タイタ 氣の毒だが、こらへて下さい。(俵らを指さして)あれらは、ゴッスたるあんた、ちが、現に生きてゐて、後に死んだのを見なすつた者共の兄弟です。だから、其殺された兄弟の爲に、宗儀上から、犠牲を求めてゐるのです。それには、是非あんたの息子を殺して供へんければ、苦み呻いてゐる亡魂を慰めることが出来んのだ。

ルーシ さ、早く連れてゆかう！ さうしてすぐ焚火をして其燃え木の上へ、めいめいの劍で、手足を斫り落して、焼いッちまはう。

ルーシヤス、クインタス、マーシヤス 及び ミューシヤスがアラーバスを引ッ立て、入る。

タモラ (悲み悶えて) お、何といふ残忍な、非道、無法な宗教！

カイロ シ、ヤの野蠻だつて、よもやこれほどぢやアあるまい！

デミト どうして、功名に渴するローマの残忍はシ、ヤどころぢやない。あ、アラーバスはもうすぐ安息するんだが、生残つた此方らは、タイタスめに睨み附けられて、これから常住ふるへて暮すんだ。お母さん、もう覺悟をなさいよ。だが、それと同時に、神がゴッスの王妃に……彼のトロイの妃(ヘキユーバ)に鋭い復讐の機會を與へてスレースの暴君(ポリムネストル)を陣營で殺させなすつたと同じ冥助を……ゴッスがゴッスであつた時分にや立派な王妃であつたタモラにも下し賜はつて、此残忍の仕返しをさせて下さる時のあることを心頼みになさい。

ルーシヤス、クインタス、マーシヤス 及び ミューシヤスがめい、血に染みだ劍を持って歸つてくる。

ルーシ 父上、御覽なさい、ローマの宗儀通りに執行しました。アラーバスの手足

を斫り落し、それから臍腑は犠牲の火中に投じました、其煙は薰物のやうに匂つて、空まで昇りました。この上は、兄弟たちを葬つて、喇叭を盛奏させて、其歸國を歓迎する意を表すればいゝです。

タイタ

さうさせなさい。おれは彼等の靈魂に最後の挨拶をしよう……

喇叭を盛奏する。其間に柩を墓へ收める。

平和に、光榮に、安らかに眠れ、倅どもよ。最も甘んじてローマの爲に戦つた勇士らよ、安らかにそこに眠れ、もう此世の偶然や不運に苦しめられることはないぞ。こゝには叛逆も潜んでをらず、蒿み加はる嫉妬もない。忌はしい毒草の生長することもなく、暴風もなく、騒動もない。在るものは只沈黙と永久の眠りばかりだ。平和に、光榮に、安らかに眠れ、子供らよ。

タイタスの一人女ラギニヤが急いで出る。

ラギニ

(すぐに父の前に跪いて)おゝ、平和に、光榮に、御長命に、タイタス 將軍さま、父

上さま！ 幾久しき御名譽をお祝ひ申します！ ねえ、見て下さい！ 兄弟たちの葬儀の爲に、お墓へは、悲しい貢の涙を、又、あなたの御凱陣を祝ふためには、斯う地上へ膝を突いて、嬉し涙を流します。おゝ！ その御勝利の貴いお手で、ローマの貴族達までが讃めるお手で、わたしを祝福して下さいまし。

タイタ

(嬉し涙に暮れて)深切なローマよ、この、わしの老後の強壯劑を、わしを悦ばすために、深切にも保存しておいてくれたか！ ラギニヤよ、長生をしてくれ。父よりも、不朽の名譽よりも長生をしてくれ、淑女の譽れを得て！

マーカス・アンドロニカス 及び 其他の護民官らが出る。サタアナイナス、バツシエーナス、其他の者も出る。

マーカ

タイタスどの、萬歳！ わが愛敬する舎兄よ、ローマ國人の瞻仰の的たる凱旋將軍！

タイタ

ありがたう、護民官どの、わが敬愛する舎弟マーカス。

マーカ

(甥に) 甥御たちよ、めでたい凱陣を祝しますぞ、……生残つたおまひたちをも……名譽を得て永眠するおまひたちをも!……あゝ、貴族がたよ、今度、國の爲に劍を抜かれた諸君は皆一様に御好運でありましたが、就中この堂々たる葬儀を了へた主は、所謂ソロモンの幸福を仰望して名譽の床に眠り、長永に偶然を克服し得たと申すべく、一等安全な凱旋者であります。……タイタス・アンドロニカスどの、貴下は常に正義の爲には、ローマ國民の莫逆の友であつた。で、ローマ國民はそれを徳とし、護民官たる自分に全權を委任して、貴下に此清い純白の外套を送り、帝位繼承の選舉に際して、前帝の皇子たちと同等に指名さるべき候補者となられたのです。ですから、此れをお召しなすつて、頭の無いローマに、頭を据る附ける手傳ひをして下さい。

タイタ

光榮赫々たるローマの頭は、こんな老いさらばつたのではないほうがよい。何の爲に、わしが此んな服などを着て、君がたに餘計な世話を掛けるか? けふ宣言して選ばれたところで、明日はもう職をも世をも辭することゝなりや、又新たに選舉騒ぎをせんけりやなるまい。あゝ、ローマよ、わしは此四十年間おまひの軍人として、國の兵をひきゐて連戦連勝し、さうして其間に、國の爲に忠勤を勵んで、戰場で勳爵士となり、男らしく戦死をした倅を二十人までも葬つたのだ。此老人の爲に名譽の杖を與へて下さい、此世を統御する梃は辭退する。貴族たちよ、此間まで梃を握つてをられた彼の人は良君主であつた。

マーカ

タイタス、請求なさりやア此國は貴下の有になるのですよ。

サタア

(佛然として) マーカスを睨んで、傲慢な、野心家の護民官め、よくもそんなことを!

タイタ まま、サタアナイナス殿下。

サタア (衆人に) ローマ人よ、わしの権利を認めてくれ。貴族たち、剣を抜いてくれ、さうして此サタアナイナスがローマ帝となるまでは、それを鞘へをさめないでゐてくれ。……アンドロニカス、汝なんかは地獄へでも送られッちまへ、民衆の心をおれから離れしめようとしをるなら!

ルーシ (憤激して) 驕慢にも程のあつたものだ。殿下、タイタスは高潔な心からあんなの爲に好意を表しようとしてゐるのです。なぜ邪魔をなさるんです?

タイタ (サタアナイナスを和めて) 殿下、御安心なさい。今に民衆の心をあんたのはうへ轉ぜさせるやうにしますから。

パッシ (タイタスに) アンドロニカス、わたしは空世辭はいはない、が、あんたを尊敬してゐる、死ぬまで尊敬するでせう。若しあんたが其親友たちを以てわ

タイタ が黨の後援をして下さるやうなら、最も深く感謝します。高潔な人々に對する名譽の報賞は感謝なのですから。

タイタ (衆人に) ローマの民衆よ、そこにをられる護民官たちよ、諸君の發言權と推選權とを、御好意を以て、何と、此アンドロニカスにお譲り下さるまいか? アンドロニカスどの、此めでたい凱旋を祝し且つ其御歡心を得んために、われわれ、民衆一同は、アンドロニカスどのが推選されるなら、何人をも承認しませう。

護民官 護民官諸君、かたじけなうござる。では、諸君にお願いします、先帝の長皇子サタアナイナスどのを御推選なすつて下さい。同皇子の才徳は日の神の陽光が地球を照らす如くにローマ全國を照らして、此共和國に正しい政事を圓熟せしめられることと信じます。御賛成であるなら、皇子に帝冠を獻じて「皇帝萬歲!」と歡呼して下さい。

マーカ

貴族も平民も、各階級共聲を合せて、サタアナイナス殿下をローマ大帝と崇め、すなはち異口同音に歡呼しますぞ、……皇帝サタアナイナス殿萬歳！

喝采と喇叭の盛奏とがやゝ暫く続く。

サタア

タイタス・アンドロニカス、本日の選挙に於て、あなたが自分に表しくれた好意に對しては、今は只、其功勞の一部分のみの禮をいふにとゞめて、いづれ、行爲を以て此禮讓に報いることにしませう。で、先づ、手始めとして、タイタス、君の名を又其家名を高めるために、ラギニヤを后にします、ローマ皇帝の妻、わが心の妻として、神聖なる衆神殿に於て、婚儀を舉行します。ねえ、アンドロニカス、よもや不賛成ぢやあるまいね？

タイタ

ありがたく存じます。拙女を后となしくだされる恩命は、自分の非常な光榮であります。では、こゝに、ローマ全國の面前に於て、自分は、わが共和國の王たり元帥たり全世界の皇帝たるサタアナイナスどのに、此劍を

サタア

も、此戰車をも、此捕虜をも獻じます。いづれもローマ皇帝への贈り物として恥かしからぬものであります。(と跪いて)では、手前が名譽の徽章たる此等貢物を、恭しく御脚下に呈します、御受納下されませう。

ありがたう、わしの命の親のタイタスどの！ いかにあんたを又此贈り物をわしが尊重するかといふことは、長くローマの記録に書き留めさせます。萬一にもわしが此言ひ盡せない功勞を少しでも忘却するやうなことがあつたら、ローマ人よ、おまひたちは、もうわしに忠義を盡すには及ばん。

タイタ

(タモーラに) 妃、あんたは、これからは、帝王の捕虜となんなさるのだ。が、其帝王はあんたの身分を思つて、あんたをも又家來たちをも、きツと御優待なさるだらう。

これより先き色好みのサタアナイナスは、姥櫻ながら妖艶なタモーラに目を附けてゐたが

サタア

(傍白) 立派な婦人よ、安心してるがいゝぞ。 あゝ、あの肌の色は好もしい。 新たに擇ぶとすりや、あの女だ。(タモローに) 妃、敗軍のために薄運の身となられたから、道理ではあるが、そんな曇つた顔をしておいでなさるな。 ローマへ連れては来たが、決して侮辱は加へません、萬事王族らしく待遇しますよ。 わたしの言葉を信じて決して絶望なさるな。 ねえ、いざとなりや、あんたをゴッスの王妃以上の身分ともなし得るわたしが慰めてゐるのだ。……(と言つたが、心附いて) ラギニヤ、かういつたからツて、あんたが何も不快を感じやアしないだらう?

ラギニ

いゝえ。 氣高いお心の方が、皇帝としての御禮節で、お約束を遊ばすのですから。

サタア

ありがたう、可憐なラギニヤ。……ローマ人よ、さ、行かうぞ。 其捕虜どもは悉く放免する。 償金は要ん。 喇叭や太鼓を鳴らして予の光榮を宣傳

してくれ。

と先きに立つて既に幾歩か進む。

バッシ

(だしのけに) タイタスどの、御免(と突と寄つてラギニヤの手を取つて)この娘はわたしの有です。

タイタ

(驚いて) どうなさるのです? え、真氣でなさるのですか?

バッシ

はい、真氣です。 正理であり權利であることは、飽迄も貫徹する決心です。 とラギニヤを後ろに圍つて劍を抜く。

マーカ

「各自へ各自の有を」といふのはローマの公道です。 此皇子が彼女をわが物とせられるのは正當なことです。

ルーシ

さうです、さうしてさうさせます、此ルーシヤスが生きてゐる以上は。 と劍を抜く。

タイタ

え、退れ、謀叛人め!……こら、帝の護衛はゐないか? 御前、謀叛で

すぞ！ ラギニヤを強奪しますぞ！

サタア (はじめて聞き附けて、驚いて) なに、強奪！ え、何者が？

と侍者らと共に立戻る。

バッシ

婚約をしてゐた者が連れてゆくのだ、餘人が故障をいふ筈はない。

マーカスとバッシエーナスはラギニヤを連れて入る。人々立騒ぎ、追ひかけようとするものもある。それをルーシヤスはじめの兄弟が剣を抜いて追ひ排ける。

ミュー

兄さんたちは従いてつて妹を保護して下さい、わたしは此剣で此門を守るから。

ルーシヤス、グインタス、マーシヤス入る。

タイタ

(サタアナイナスに) 御前後からおいで下さい、拙女はすぐに連れ歸ります。

と剣を抜き、奮激して追ひかけようとするをミューシヤスが遮

つて

ミュー お父さん、こゝは通しません。

タイタ (赫となつて) なんだと！ 小わつばめが！ おれを通さない？ 見事、此ローマで？

といふや否や、ミューシヤスを刺す。

ミュー ルーシヤス、助けてくれ！

と言ひ、絶命する。

ルーシヤス 急いで出てくる。

ルーシ お父さん、こりやア不正だ！ 不正以上です、非理不法な事で、實の子をお

タイタ 殺しなるといふは！

汝もあいつも子ぢやアない。親を凌辱するやうなやつは子ぢやアない。謀叛人め、早くラギニヤを帝へ返せ。

ルーシ 死にでもすりや返すが、妻にはさせない。彼女には婚約した夫があるんです。

言ひ棄てゝ入る。

サタア

よせ、タイタス、よせ。予はもうあの女を要しない、彼女をもおまひをも、おまひの一家の何者をも要しない、おれを馬鹿にするやうなやつは、閑暇で困るやうな時に信任する積りだから。おまひやあの傲慢な息子らは信任しない、おれを辱めようと徒黨してゐる謀叛人めら！ 人もあらうに、此サタアナイナスを玩弄物にしをるとは！ やい、アンドロニカス、此不埒は、汝の不遜な大言に相應してゐる、汝は、おれが汝に哀願して帝位に登つたと高言しをつた筈だ。

タイタ

何といふ無法な御非難！

サタア

お、けしからんことを！ だが、勝手にするが、あの無節操な女めは、劍を揮り回して連れてつ

たあの男にくれてやるが、勇敢ない、婿が出来て仕合せなことだ。亂暴者の息子らと撲り合ひをして、ローマを騒がせるにや持つて来いの男だ。

タイタ

あゝ、その言葉は、此傷附いた胸をるぐる剃刀だ。

サタア

斯うなつた上は(とタモーラに)タモーラどの、彼のあてやかなフィービー(月神)が他の女神に於ける如くに、此ローマの最艶麗なる貴婦人どもの光を奪ふゴッスの王妃よ、少々唐突ではあるが、あなたに異議がなけりや、わたしはあなたを新婦に迎へて(と手を取つて)此通り、ローマの皇后にしたいと思ふが、妃よ、賛成かどうか、返辭をして下さい。幸ひ神官も近くにをり、聖水も附近に在り、蠟燭も輝きわたり、すぐにも婚神を迎へることが出来るのだから、予はローマの諸ろの神祇に誓つて断言する、予は此新婦との婚儀を了へて、伴つて歸らん以上は、又と此街中へは出て来んぞ、又、宮殿へ入

ることとせんで。

タモラ

わたしも、ここに、天のお目の前で、ローマの人々に誓言します、若しサタアナイナス帝がゴッスの王妃を皇后に昇進せしめられますなら、彼女は帝のお侍女となつて御所要を辨じ、又保母とも母御ともなつて、お年若の帝を御介抱いたしませう。

サタア

では、妃、さ、さ、衆神殿へ。貴族たち、君たちもわたしと一しよに。皇帝サタアナイナスに天の賜はつた此新婦は、其賢婦人たるの徳によつて、圖らずも此幸運を贏ち得たのである。パーシオンで一切の儀式を済ますであらう。

タイタスの他は皆入る。

マーカ

おれには其婚儀の席に列しろともいはない。あゝ、タイタス、これほど侮辱され、不法な言ひがかりをされて、たつた一人街中に取残されたことが、

曾てあつたか？

マーカス、ルーシヤス、クインス 並びにマーシヤス 出る。

マーカ

おゝ、タイタス、あんたは、まア、何といふことをなすつた！ 立派な息子

タイタ

を無法な言ひ争ひをして殺しておしまひなすつた、何をいふんだ、馬鹿者の護民官めが！ 徒黨を組んで、家門全體の恥になるやうなことをしをるやつは倅ぢやない。おまひととも、そいつらととも、兄弟とは思はん、子供とは思はん。

ルーシ

だつて、ミーシヤスを、兄弟たちと一しよに、埋葬することだけは許して下さい、さい、適当な方法で。

タイタ

えイツ、謀叛人ども、いッちまへ！ あいつは此墓ぢやア休ません。此廟は、出来てから、もう五百年にもなつたのを、おれが再建して立派にしたんだ。この中にはローマの爲に働いた名譽の勇士の外は休ませんのだ。卑劣な

喧嘩で死んだやつなんかは容れん。どこか外へ埋めろ。こゝへは容れん。
 マーカ 兄上、そりや非道です。甥、ミューシャスの功績が辯解してゐます、是非、兄弟と一しよに葬つてやるのが當然です。

クイン 是非さうすべきです。さうして貰へなけりや、わたしたちも彼れの後を追ひます。

タイタ 是非だ！ どいつだ、是非なんてことをいつたやつは？

クイン こゝでさへなけりや、きつとそれを實行して見せる男がいつたのです。

タイタ 何だ！？ おれに逆らつても、こゝへ埋めようといふのか？

マーカ (制して) あゝ、これ、タイタスどの。ねえ、どうか、ミューシャスの罪を赦して、埋葬させて下さい。

タイタ やい、マーカス、汝はおれの此頭を撲りつけて、あの小僧共と共謀になつて、おれの面目を叩き潰しをつた。汝らは、どいつもこいつも、おれの仇敵だ。

マーシ もう煩いことをいふな。みんな去ッちまへ。

クイン (皆に) 気がちがつてるんだ。引きあげよう。

クイン おれア厭だ、ミューシャスを葬らないうちは、

マーカスが進んでタイタスの脚下に膝まづくと、他の三人も同じく膝まづく。

マーカ 兄さん、と呼んで肉親の者が哀願するんですから……

クイン お父さん、と呼んで肉親の者がお願ひするんですから……

タイタ よせ〜、みんななさうしたからッて、駄目だから、よせ〜。

マーカ わたしの靈魂の半分よりも以上と崇めてゐるタイタスどの……

ルーシ わたしたち一同の靈魂とも本體とも崇めてゐるお父さん……

マーカ どうぞ此マーカスに、あの立派な甥を此俊傑たちの巢窟へ共葬することを許して下さい、彼れはラギニヤに貞操を全うさせようとして死んだので

す。あんたは、ローマ人である以上、野蠻の振舞をなさるべきでない。ギリシヤ人は、自殺したエージャックスの埋葬を一旦は拒んだけれど、ユーリシーズが懇ろに辯論したので、再考の後、埋葬しました。して見りや、ミューシヤスはあんたの愛兒だ、こゝへ葬らせて下さらんといふ法はない。

タイタスの心が次第に和らぐ。

タイタ お起ちなさい、マーカス、お起ちなさい。あゝ、けふは曾て見たことのない陰鬱極まる日だ、ローマの市内で、現在の子供らに凌辱されるとは！……おちや、葬るが、その後でおれをも葬つてくれ。

皆々が助けあつて、ミューシヤスの死骸を墓へ收める。

ルーシ なつかしいミューシヤスよ、親友たちと一しよに、そこに臥てゐな、今にいろんな記念品で墓を飾つてやるから。

一同 (跪いて、墓に向つて) 立派なミューシヤスの爲に、だれ一人涙を流してくれた者

もなかつたけれど、道義のために死んだのだから、其美名はいつまでも生き残るぞ。

マーカ 兄上、此陰鬱を紛らすために聞きますが、どうしてあの狡猾なゴッスの王妃が、急に皇后に昇進したのですか？

タイタ 仔細は知らんが、事實だ。計略の結果だか、どうだか、人間には解らん……此好運を得たのは、畢竟、連れて来てくれた者のお庇だ、と彼女が思はないだらうか？ いや、きつと其恩に報いる氣はあるだらう。

喇叭盛奏。一方からは帝サターナイナスが從臣をひきゐて、タモーラ、デミトリヤス、カイロン並びにアローンと共に出る。と他方からはパッシエーナス、ラギニヤ並びに其他の者らが出る。

サター パッシエーナス、其方は競技に勝つて、賞品を得たんだ。神が其方をして其うつくしい花嫁を享樂せしめたまはんことを祈るぞ。

バッシ

御前に對しても同じです！ 申す事も、祈る事もそれだけです。 さよなら。
と直に行かうとする。

サタア

やい、謀叛人め、ローマに法律があり、又おれにそれを勵行する権力がある以上、汝及び汝の黨與は今日の強奪を後悔せにゐるまいぞ。

バッシ

自分の物を、婚約を結んでゐた愛人を、今は既に妻と呼んでゐる者を連れていつたのを、強奪だと言ひなさるか？ ローマの法律によつて如何やうともお裁きをなさい。 それまでは、自分の物は手離しません。

サタア

よろしい。 予に對してさういふ無遠慮な返答をするなら、此方もまた、生きてゐる以上、峻烈な處分をするから、さう思へ。

バッシ

御前、自分がした事は、いづれ最善を盡して、命に掛けても辯解する積りですが、それとは別に、特にお知らせしておきたいことがあります。 それは、ローマに對するあらゆる義務に掛けて申すのですが、そこにゐる其タイタ

ス將軍は、女ラギニヤを取返さうとして、手づから其の末子を殺した爲に、

世の聞えを損じ、名譽を傷附けました、が、それは、要するに、熱誠の餘りに

したことです、女を獻じようとした自由意志を他の爲に掣肘せられたのを

赫怒した餘りにしたことです。 サタアナイナスどの、どうか彼仁を優遇な

すつて下さい、あなたに對しては父、ローマに對しては親友として、常に忠

誠を抽んでゐたのですから。

タイタ

バッシエーナス殿下、手前のしたことの御辯解は御無用です。 本来、手前を侮辱したのは貴下やそいつらです。 ……(跪いて)ローマよ、正しき神々よ、手

前が如何にサタアナイナスどのを愛敬してをつたかを御判断下さい！

タモラ

陛下、若し此タモラを假にも憎からず見なはしますなら、一同のために公平に願ひします、どうぞ過ぎ去つたことはお宥し下さいまし、わたくしのお願ひです。

サタア

え、何ですと？ 公然恥を搔かされて復讐もせず、卑屈にも忍従しろといふのですか？

タモラ

いゝえ、さうではありません。ローマの神々よ、禁じたまへ、かりにもわたくしが陛下の御不名譽になることをお勧めしますことを！ いゝえ、只あの……飾り偽らぬ憤激に悲歎の程が思ひやられるあの善良な……タイタスどのに何の罪もないことを、自分の名譽に掛けて、保證します。お願ひでございませう、あの仁を御恩遇下さいませ。あれほどの立派なお身方を一旦の御嫌疑でお失ひなさいませ。又、あんな深切な心をば、苦い顔を見せ、お苦しめ遊ばすな。

と言ひながら、小聲で

(傍白) ねえ、陛下、わたしのいふ通りにしておいて、最終に勝をお收めなさいませ。御不満も御不快も表面へは見せないやうになさい、まだ帝位にお

即きになつたばかりなのですから。下手などをなさると、平民も貴族も、公平な觀察をした結果、タイタスの身方になつて、あなたを恩知らずだなどといつて、廢し兼ねませんよ、忘恩といふことをローマ人は大罪惡と考へてゐるんですから。歎願をしたら聽き届けて、あとはわたしにお任せなさい。早晚あいつらの黨派をも、一族をも……大事のわが子の命乞ひをしたのに、殘忍にも殺しをつたあの親父をもあの謀叛人の倅らをも……今に根こそぎ殺してくれませう、一國の王妃たる者を、徒らに街中で跪坐させ、哀を乞はせた報いを知らせてくれませう。(又大きな聲で) さ、さ、陛下……さ、さ、アンドロニカス。(サタアナイナスに) ねえ、あの善良な老人を起たせて慰めておやり遊ばせ、御逆鱗に觸れて死にさうになつてをります彼れの心を。起て、タイタス、起て。後の歎願を聽きとめて、罪を赦す。陛下並びにお后にお禮を申し上げます。そのお言葉と其お顔色で再び生

タモラ

き返りまする。(と起ち上る)。

タイタス、わたしは、けふからはローマの幸福な養ひ子となつたのですから、ローマとは一心同體です、偏にお爲になるやうにと帝に御助言をせねばなりません。アンドロニカス、一切の争ひは今日限りです。ねえ、陛下、どうぞ此、あなたと御親友との間をお調停しましたことを妾の名譽と遊ばして下さいまし。……パッシエーナス殿下、あなたの爲にも、帝へわたくしからいろく申しまして、以後はもつと溫和に柔順におなり遊ばしますからとお約束しておきましたから、さうおぼしめしまして。……それから、貴族がたも、決して御心配なさらんやうに。……ラギニヤ、あんたも。……みんなに忠告します、速かに跪坐して恭しく陛下の御宥免をお願ひなさい。

ルーシ

跪いて一同が御宥免を願ひますると同時に、天に對し又陛下に對して誓言します、手前共が妹並びに自分らの名譽の爲にしましたことは決して暴擧

マーカ

ではございませぬ、全く止むを得なかつたのでございます。手前もそれを自分の名譽に掛けて主張いたします。

サタア

(じれはじめて) えイツ、やかましい！ もう聞くにや及ばん。

タモラ

(なだめて) いゝえ、陛下。めでたく仲直りをなさらねばならぬのです。護民官や其甥たちが、御仁恕を乞はうとて、跪坐してゐます。ねえ、わたしのいふことを聽いて下さいね。ね、見返つておやり遊ばせ。

サタア

(氣を取りなほして) マーカス、おまひの爲に、又そこにゐるおまひの兄貴の爲に、又此愛するタモラの歎願の故に、その若い者共の大不埒を宥すことにする。起て……。……ラギニヤ、其方は予をまるで農夫扱ひにして見棄てたが、予は幸ひに一愛人を得た、さうして死の如く確實に、神官と手を別つ前に、婚儀を執行すべく誓つた。さ、ローマ皇帝の朝廷が二人の新婦をもてなすに足るならば、ラギニヤ、其方及び其方の友人連は皆な予の賓客

タイタ

にしよう。……タモーラ、けふをば所謂和睦日にしようよ。

もしもお氣に召しますなら、明日、豹や兎のお獵をなされてはいかゞでございます、手前はじめ一同の者が角笛や獵犬を準備しまして早朝御機嫌を伺ひませうが。

サタア

タイタス、そりやけつこうだ。ありがたう。

喇叭。皆入る。

* * * * *

第二幕

第一場 ローマ 宮殿の前

黒人アーロン出る。

アーロ

今ぢやあのタモーラは、運命神の箭玉からも、又雷霆や電光からも大丈夫といふオリンバスの頂上まで攀ぢ登つて、蒼ざめた嫉妬なぞに脅される心配もない高いところに坐つてゐる。まるで引明け方に東から面を出して其光線で以て海原一面を金鍍して、燦々馬車で黄道帯を驅けさせるあの金色の太陽が、聳えてゐる山々を遙かに見おろしてゐる風なのがあのタモ

ーラだ。……下界の榮譽(諸人尊)は悉く彼女の家來も同様、又どんな美德(君子や豪傑)も彼女に睨まれりや脊をこいめてぶるく慄へる。して見りやア、アローンよ、うんと肚を据ゑて、后と一しよに、魂膽して、同じ高さまで登るがいゝぜ。彼女アおまひがとうに征服して、戀愛の鎖で繋いで、長い間捕虜にしといた女だ。やつがアローンさまの此魅力のあるお目で呪縛されてゐる堅固さは、プロミシユースがコーカサスの岩頭へ縛り附けられてゐたそれ以上だ。奴隷服や卑屈な根性はもうさらんばんだ。新皇后に奉公するために目覺しい装をしてくれう、眞珠や金で以て飾り立て、くれう。おや、奉公するといつたッけかな？ なアに、巫山戯ようてんだ、あの王妃と、あの女神と、あのセミラミスと、あの水妖と、ローマ帝のサタアナナスを魅惑して、やつをも共和國をも難破させようとしてゐるあの妖魔女と。(ふと聞き耳を立てて) ホラー！ 何だあの騒ぎは？

デミトリヤスとカイロンが何か互ひに罵り合ひつゝ、出る。

デミト
カイロン、汝は若いから分別が足らん。分別が足らん上に氣が利かんと來てるから、こんな無禮を働くんば。おれが大切にもしられ、思はれてもゐることは解り切つてゐるのに、横ばんを切らうとするのは無禮だ。



カイロ
デミトリヤス、君は何事にでも己惚れ切つてゐるが、これをも暴力で壓倒しようてのか？ 齡が一つや二つちがつたつて、それで僕が君に劣る筈はない。僕だつて、立派にあの女に愛される値打もありや、爲になつてやることも出来る。何なら、此劍で勝負をして其證據を見せよう、僕がいかにならギニヤを熱愛してゐるかの證

據を。

ア—ロ (大きな聲で) 用心棒だ! 用心棒だ! ……あの二人は女の事で喧嘩をしさうだ。

「用心棒云々」は夜番又は警吏を呼ぶのである。

デミト やい、小僧、阿母がうっかり汝に舞踏用の剣をぶらさげさせたからって、さうまで向う見ずに猛くなつたのか? 見さかひもなく、親友にまで、喧嘩を賣るのか? 馬鹿ッ! 其なまくらを鞘へ膠附けにしておきな、ほんとの使用法を習つたまでは。

カイロ うぬ! それまでに、今習つてゐるだけの手際で、どのくらゐのことが出来るか、知らせてくれる。

デミト ヘッ 小僧め、汝それほど強くなつたのか?

二人、劍を抜き、既に闘はうとする。

ア—ロ (割つて入つて) あ、もしく、お二人とも、どうしたのです? 皇宮のすぐ傍

で、拔劍なんかして、おほッぴらに喧嘩をなさることがありますか? どういふ意趣かてことは、わたしにやよく解つてます。が、百萬元に代へても、此事を關係者にやア知らせたくありません。況んや御母公さまにはです、こんな事が朝廷沙汰になつた日にやア、何百萬元にも代へがたい御不名譽でせうから。お恥です、劍をお收めなさい。

デミト いやだく、おれは此劍をやつの胸へ突き通して、今おれに向つて言つた無禮な雑言をやつの咽喉の下まで押込んでくれない以上。

カイロ それは、こつちで決心して、待ちかまへてゐるところだ、口ばかり強さうで、武器を取ツちやア意氣地のない、卑怯者がめ!

ア—ロ これさく! ……あ、勇敢なるゴッスが崇め奉る神々よ、御照覽下さい、こんな詰らん喧嘩が原で、此方が駄目になツちまふ! ……お二人さん、

貴君がたはお氣が付きませんか、ローマの皇族の權利を蹂躪なさるのは極めて危険ですぞ！ え！ あのラギニヤが急に自墮落な女にでもなりましたかい？ バッシエーナスが平人に墮落でもしたのですか？ あの女の事で、遠慮會釋もなく、こんな喧嘩をなさるのは？ 裁判の事も復讐の事も考へないで、おほッびらに。 お若いとはいひながら、ま、お考へない！ 后のお耳へ此御不調和の不快感が聞えて御覽なさい、それをいゝ音樂だとおつしやる筈はありませんよ。

カイロ かまふもんか、阿母が知らうと、世界ぢうが知らうと。 おれは世界ぢうよりもラギニヤが大事だ。

デミト 青二才め、もつと粗末なのをうぬが女に擇ぶことを習へ。 ラギニヤはお兄伊さんの御希望の女だ。

アーロ これさ、氣でもおちがひなすつたか？ ローマ人がどんなに短氣で、氣が荒

くて、殊に色戀に掛けては競争を許さないてことを御存じでないのですか？ こんな事をなさるのは、自身で自身の死をお招きなさるやうなものですよ。

カイロ アーロン、愛する女を手に入れるためには、一千たび死んでもかまはん。

アーロ あの女を手に入れる！ え、どうして？

デミト なぜ、それを、さう不思議がるんだ？ ありや女だ、だから口説くことは出来る。 ありや女だ、だから落すことは出来る。 ありやラギニヤだ、だから愛さないわけにやいかない。 はて、水車の水量は水車屋が知つてゐるよりも多い。 一片の麵麩から一小片を盗むのは容易なことだ。 あのバッシエーナスは帝の弟だとはいへ、なアに、やつ以上の者でヴルカンの徽章（角、被姦夫の章）を附けてゐた者が幾らもあらア……

アーロ （傍白）さうだ、サタアナイナスだつてさうだ。

デミト して見りや、失望するには及ばない、うまい文句や様子はい、面附やいろんな贈物で相手を口説くことを心得てゐる者は。え？ そら、汝なんかもたびく、牝鹿を射殺して、番人の鼻の先きをまんまと擔ぎ出したことがあるぢやアないか？

アーロ ぢや、何です、何かい、機會を見附けて、咄嗟にやっつけようてんですね？

カイロ さうさ、さういふ機會さへありやア。

デミト アーロン、汝の察しは圖星てとこだ。

アーロ いや、こつちの圖星てとこをあなたがたが察して下さるといふのだ。さうすりや、こんな無駄騒ぎをなさるにやア及ばないんです。ねえ、もし！ もし！ あなたがたはこんな事で叩き合ひをなさらうてんですか、馬鹿馬鹿しい！ お二人一しよに望みを遂げるてイのでは、お氣に入らないんで

すか？

カイロ おれア決して異議はない。

デミト おれとてもだ、其一人になれさへすりや。

アーロ ぢや、馬鹿々々しいから、仲直りをなさい、さうして合體して、其争つてゐなさるものを手にお入れなさい。計略でなくちやア手に入りませんよ。だから肚を据ゑて、正面でいけなきや腕力でやっつける氣にならなけりやいけませんよ。ねえ、例のルークリスはパッシエーナスの愛人のあのラギニヤより貞節な女ぢやアなかつたのです。ぐづくと戀ひ煩ひなんかしてる場合ぢやない、手取り早くやっつける工夫があります。といふのは、つい近く大林獵が始まります。其時にヤローマのうつくしい貴婦人連がみんな出掛けます。森中の散歩路はだつと廣くて人の往來しないところが幾らもあるから、天然自然に強姦や悪だくみに持つて來いです。

そこへあの美しくしい牝鹿を一疋だけしよびいていつて、口でいかなかつたら、腕づくでやっつけなさい。此方法でない以上、全く絶望でさ。さ、さ、此たくらみの一部始終を、わるだくみや仕返しに掛けちや智慧の神さまのお后さんへ知らせませう。さうすりや、こちとらの魂膽へ磨きをかけて下さいませう、あなたがたに苦勞なんかさせないで、十分お望みの遂げられるやうになさいませう。宮中は、そら、あの噂の宮のやうなもので、左右前後、舌だらけ、耳だらけだ。ところが、森は豊で、遅鈍で、物すごくて無慈悲だ。喋舌るにもよし、叩き附けるにもよしだ。ねえ、大膽に機會を覘つて、繁つた木で天の目を蔽つておいて、あのラギニヤのお寶物を、満足するまで享樂なさい。

カイロ

デミト

其勸告に随つても卑怯者にやなるまいで。(中々勇氣の要るこつたから)。

邪でも非でも、此熱を冷す氷が、此發作を鎮める禁厭が見附かるまでは、地

獄の河でも渉る、亡者のゐるところへでも往く。
 入る。

第二場 林中

角笛の聲と獵犬の吠える聲が聞える。
 タイタス・アンドロニカスが獵師ら連れて出る。 マーカス、ルーシヤス、グインタス、マーシヤスも共に出る。

タイタ さア、獵のはじまりだ。晴れぐしした朝だ。空の色が薄青い。野には花が香り、森は緑だ。こゝで犬を解き放して、吠え立てさせて、帝やお后を起さう。それから殿下をも起して、獵の笛を朝廷ちうが反響するほどに鳴り

渡らせよう。伴ども、帝のお身をよく注意して警護しろ、それがわれらの責任だから。ゆうべは、どうも安眠が出来なんだが、夜が明けたら、気分がよくなつた……

獵犬が吠え立てると同時に、角笛を盛んに吹き鳴らす。

帝、サタアナイナス、后、タモーラ、バツシエーナス、ラギニヤ、デミトリヤス、カイロ、ン及び侍者らが出る。

幾たびとなき吉辰を陛下がお迎へ遊ばされますやう！ お后にも御同様！ 獵笛でお知らせをするお約束でございましたから。

サタア いや、中々盛んな吹き方であつた。だが、新婚の婦人たちには、ちつと起し方が早かつたらうぞ。

バツシ ラギニヤ、あんたどう思ふね？

ラギニ 早かつたとは存じません。二時間も前に目を醒ましてゐましたから。

サタア ぢや、出かけよう。馬や車の用意をさせてくれ。さ、さ、遊獵……后、これ

からローマの林獵の模様を見せませう。

マーカ 手前の飼犬どもは、どんな逞しい豹でも狩り出しますし、どんな高山の頂へでも駆け登ります。

タイタ また手前の馬めは、獸が逃げて行きますとこへは、どこへでも追ッ駆けてまゐります、其原の上を走る様は、まるで燕のやうでございます。

チミト (傍白) カイロン、こちとらは馬や犬ぢやアないが、今に牝鹿めをおッぶせてくれる積りだ。

皆入る。

第三場 森の淋しい部面

アーロンが金貨の囊を持つて出る。

アーロ

智者は、木の下へこんな大金を、玉無しにする。と知りながら、埋めるのを見て、おれを智慧なしとも思ふだらうが、さうおれを見下げるやつらに知らせてやつてくれ、此金は計略を鑄上げるための種なんだ。其計略がうまく行きやア、逆も結構なわるだくみが成就するんだ。だから、金貨ちやんや、こゝに安心して休んでゐな、……

金貨を地中に埋めながら

後の金匣から施興を貰つてやがるやつらを不安にするために。

タモロー出る。

タモラ

可愛いアーロンや、どうしてそんなむづかしい顔をしてるの、何もかもが愉快さうに、誇らしげにしてゐるのに？ 鳥はどの叢でも佳い聲で歌つてゐるし、蛇は心地よげにとぐろを巻いて臥てゐるし、青葉は涼しい風に戦

アーロ

いで、地上に市松型の影を拵へてゐる。アーロンや、此なつかしい木蔭で休もうよ、さうして饒舌りの反響が獵犬共を馬鹿にして、まるで二ヶ所で獵がありでもするやうに、佳い音色の角笛に反響するのを聞きながら、休んでゐようよ、あの騒がしい叫き聲をも聞きつゝ。さうしてあの漂泊王子（イーニヤス）とダイドー（チュニスの王妃）が、其むかし、いゝ都合に暴風雨に逢つて、人の知らない洞の中で、其あらしを避けつゝ、享樂したと想像されるあの戦ひを、あの慰みを濟した後で、互ひに抱かれあつて、楽しい眠りに耽りませうよ、犬の聲だの、角笛だの、いゝ聲の鳥だのが、乳母が赤兒を眠かす時の子守唄のやうに聞えるのを聞きながら。

お后さま、あなたはギーンナス（陽氣の神）さんに憑かれておいで、すけれど、手前はサタン（陰氣の神）さんに支配されてゐます。御覽なさい、手前の目の据わつてゐるのを、黙り込んでむづかしい顔をしてゐるのを、羊毛よろ

多くの頭髪が突立つてゐるのを、まるで蟻が敵手に飛び附いて咬まうとし
 て蟻局を解いた時のやうに。ねえ、お后、こりや逆も色事なんかの前兆ぢ
 やありませんや。手前の胸にあるものは、復讐です、手にあるものは死で
 す、頭の中でこつこつと製作してゐるものは血みどろの仕返しです。もし、わ
 ヅしの魂のお后さんのタモラさん、わツしの念願は、あなたに御安心
 をさせたい事の外はないのです。もし、けふはあのバッシエーナスの運
 の盡きてイ日です。やつのフィロメル（情婦）は今日舌をなくするんです、あ
 んたの息子さんたちが、あの女の貞操を無理奪りして、其手をバッシエーナ
 スの血で洗はうてんです。ねえ、此密書を御覧なすつて、これを、この凄
 目論見の書面を王へお渡しなさい。……もう何もお言ひなさるな。……目附
 かつたやうです。あそこへやつて來ます、此方らの獲物の一部が、うぬが
 命の今に亡くなるのを夢にも知らないで。



第二幕 第三場

とタモーラを制めつゝ、一方を見てゐる。

タモラ

あゝ、可愛いムーアや、わたしには命よりも可愛いのおまひが。

ムーア

もうおよしなさいまし。(と立離れて) バッシエーナスが來ます。わざと突掛かつてゆくやうになさい。わっしは息子さんたちを呼んで來て、其喧嘩の後押をおさせするやうにします。どういふ喧嘩であらうと、そりやかまひません。

入る。

バッシエーナスとラギニヤと出る。タモーラとアローンとの今の態度を遠目に認めたのである。

バッシ

どなたかと思ひましたら、ローマの皇后ともあらうお方が、警護の者をもお連れなさらないで！ それとも(と皮肉に)或ひは、ダイヤナ神が、けふの大林獵を一覽のために、神聖な杜を離れて、後の身装で出現にでもなつた

のですか？

タモラ

失敬な、人目を避けて散歩をしてゐるのが、何がわるい！ わたしにダイヤナの神通力が有りや、あのアクチオンのやうな角が、忽ちおまひの其顛顛に生えるだらう。さうして鹿になつたおまひの手足を目掛けて、獵犬どもが跳びかゝるだらう、無禮者めが！

ギリシヤの神話によると、アクチオンといふ獵夫はダイヤナ女神が裸體で水浴してゐるのを窺ひ見た報いで、眞に變形させられたとある。女に馬鹿にされる男妻にふしだらをされる男の頭には角が二本生えるといふ俗説は此神話から出てゐる。

ラギニ

(こらへかれて)お后さま、失禮ですが、あなたは角をお生やし遊ばすことが大層お上手だといふ評判です。あのムーアと二人ツきりで、こゝいらにいら

つしやるのは、其御實驗のためであらうと疑つてゐる者もあります。ジョー！ウさまが、あなたのお所天を獵犬からお護り遊ばしますやうに！ 牡鹿と間違へられ遊ばすやうだとお氣の毒です。

バッシ

后、あのどす黒いシミリヤ人の爲に、あなたは奴の皮膚の色の人間におなりですよ、汚れた、忌はしい、穢らしい者におなりです。なぜ従者に別れ、あの雪白の馬を乗りすて、こんな薄昏いとこを彷徨いておいでなさるんです、あの野蠻人のムーアだけを連れて、若しも道ならん慾に導かれておいでなすつたのでないとすると？

ラギニ

そのお樂み最中を邪魔されたからつて、わたしの殿さんを無禮者だなんぞと罵倒なさるのは、ほんとに、御道理さまですわ。……ねえ、あつちへ往きませうよ、さうしてあの方には折角鶉色のいゝ人にお逢はせしたはうがいわ。この凹地はさういふ目的には逆もよく適してゐますから。

バッシ 兄の王に此事を知らせてくれる。

ラギニ ほんとに、この事では、お兄さまは、もう長いこと陰言をいはれておいで、す。王さまともあらうお方が、あんな酷い侮辱をお受け遊ばすといふのは！

タモラ (くやしがつて) もうく、こんなにまで言はれては、堪忍しちやをられない！

と悔しがつて泣く。

デミトリアスとカイロンが出る。

デミト どうなすつたのです、お后？ お母さま！ なぜ陛下には、そんなに眞蒼になつていらつしやるのです？

タモラ まッさをになるのを不道理だと思ひますか？ 此二人の者が、わたしをこ

こへおびき出して、此いやアな、淋しい凹地へ、眞夏とはいへ、どの木もく、苦蒸して、毒のある宿り木がはびこるので、瘦せて、見すばらしく、日光な

んか曾ぞ射さない、夜中の梟が無氣味な鴉の外は何にもゐない此おそろしい坑へわたしを連れて来て、こゝでは、眞夜中になると、何百千といふ小さい鬼やシューくと鳴く蛇や墓や蟬が、それはく怖ろしい、混乱した、何ともいへない聲をして叫き立てる、だからどんな者でもそれを聞きやすぐに氣がちがつてしまふ、でなけりや頓死をしてしまふ、(爰はさういふ魔所だ)と言ふや否や、わたしをあつた物凄いの木の幹へ縛り付けて、浅ましいのたれ死をさせようとしたのです。のみならず、わたしをば不義者だの、姦婦だの、淫亂なゴツスだのと、さういふ意味の、有りつたけの悪名を並べたてたのよ。若しもおまへたちが、不思議な好運で、駈け付けて来てくれたら、わたしを無慚な目にあはせをつたせう。お母さんを生かしたきたいと思ふなら、復讐をしておくれ、でなきやもう子とは呼びませんよ。是れがあなたの子だといふ(といひながら急に劍を抜いて)證據です。

デミト

カイロ

さうして、是れがおれの分だ。

とだしぬけにパッシエーナスを刺す。

と同じく拔劍してパッシエーナスを更に一突きして

おれの手を試すために、櫛も通れ！

パッシエーナスすぐに息絶える。

ラギニヤキツとなつて身構へして

ラギニ

ちや、おのれ、敵手になれ、セミラミスめ、いゝえ、おのれ、野蠻女のタモ

ラめ！ それより外に適當な名前はない。

タモラ

其短劍をお貸し。子供たち、御覽、お母さんの侮辱はお母さんの手で雪いで見せますから。

とラギニヤに飛びかゝらうとする。

デミト

(止めて)ま、お待ちなさい。あの女にやまだ外にすることがあります。先

カイロ

づ撲り附けて穀を取つて、藁にしてから燃すがいゝです。あの(とパッシエーナスの死骸へ思入して)にやけ野郎が、彼女を處女だの、婚約がどうしたの、貞操がどうしたのと大口を叩いてゐやアがつたので、それで此女が己惚れて陛下を侮辱しやがるのです。その己惚れを持つたまゝ、殺しちやア腹が癒えない。

カイロ

それを持つてゆかせる位なら、おれは閣官になつちまはア。その亭主めをどツかの坑中へ引摺つてつて、其死骸を枕にさせて、やツつけよう。

タモラ

だが、蜜をいゝほど取ツちまつたら、胡蜂めは殺しておしまひよ、生かしておくとわたしたちを刺すから。

カイロ

大丈夫です、あぶなげのないやうにしますよ。(ラギニヤに)奥さん、さ、おいでなさい、けふこそあなたの大事にしまつておゝきの貞操をやつを賞翫させていたゞきますよ。

と引立てる。

ラギニ (身をかがいて) おゝ、タモロー！ おまひだつて女の顔をしてゐる以上……

タモラ しやべくるのを聴くのはいやだから、早く連れてゆきなよ！

ラーニ ねえ、お二人さん、たつた一言だけあの人に言はせて下さい。

デミト お后、聴いておやりなさいよ。こいつの涙を御覽になるのは、あなたの名譽ですから。けれども幾ら涙を流したつて、燧石へ雨滴が落ちたやうに思つて、平氣でいらつしやい、心では。

ラギニ (デミトリヤスに) 虎の仔が怒り猛ることを母虎に教へるといふ法はない。お！ そんなことをお教へでない。おまひは母さんからそれを教はつたのだ。おまひが吸つた乳汁はキツと悉皆石にでもなツちまつたらう。乳首をくはへてた時分から、おまひはもう其通り酷い根性を受繼いでゐたのだらう。でも(とカイロンに) 同じ腹からでも異つた質の子が生れる。……ね

カイロ え、あんた、女らしい同情を、どうぞ、お母さんにして貰つて下さい。

ラギニ 何だと！ きさまはおれを間男の子だといはうとするのか？

なるほど、鴉は雲雀を生まない。でも、昔話に、おゝ！ 獅子でさへ憫れだと思つた時には、あの立派な爪をみんな切り取らせたといふぢやアないの？ 鴉でさへ、おのが雛が巢の中で飢えてゐるのに、(それを捨て、おいて捨てられた兒を養育むといふぢやアないの？) おゝ！ たとひ酷い心から深切にはしてくれないまでも、せめて可哀さうだと思つて下さい！

タモラ 何をいつてるのか解らない。早く連れてつておしまひ！

ラギニ おゝ！ もうあれを忘れたのか？ おまひは殺される筈だつたのをわたしの父さんが助けたのです。ねえ、それを思つて、因業なことをいはないで、わたしの願ひを聴いて下さい。

タモラ (冷酷に) おまひ自身には怨みはなくても、あの爺のことを思ひ出すと、酷く

當らにやならない。……子供たち、忘れなさんな、わたしはアラーバスの犠牲にされるのが救ひたさに、涙を流して頼んだけれど、あの酷いアンドロニカスめ、どうしても聽入れてくれなかつた。だから、そいつを連れていつて、いゝやうにおし。ひどい目に逢はせてくれるほど、わたしへの孝行です。

ラギニ おゝ、タモーラ！ おまひの手で、こゝで一思ひに殺してくれ！ さうすりややさしいお后と人が呼ばう。さつきから強請つてゐるのは命ぢやない。わたしやパッシエーナスどのが死んだ時にもう殺されてゐたんだから。
(袖に縋る)。

タモラ ぢや、何をねだつてゐたんだ？ 馬鹿女が、離せ。

ラギニ ねだるのは今すぐに死ぬこと。それからもう一つは、女の口では言はれぬこと。おゝ！ 人殺しよりもわるい邪淫からわたしを助けて、どこかの穢

タモラ

い坑へでも投込んで、二度と人の目に死骸を見させないやうにして下さい。せめてそれだけのことをして、慈悲深い人殺しになつて下さい。
さうすりや可愛い子供らの骨折賃を奪つちまふわけになる。いゝえ、子供らの望みは遂げさせねばなりません。

袖を拂ふ。なほ縋らうとするのをデミトリスが隔てる。



デミト ささ、往け！ もう大變に待つてやつたんだ。

ラギニ (狂憤して) 慈悲はないのか！ 女らしきも無いのか！ おゝ！ けだものめが、女の名の汚れめが、女の名の仇敵めが、今に見ろ……

カイロ そんなことをぬかしや、其口を止めてくれる……。おい、君、其亭主野郎を持つて來たまへ。こゝが、アロンが死骸を隠しとけといつた坑だよ。

とデミトリヤスはバツシエーナスの死骸を擔いでいつて、坑の中へ投げ込む。それからカイロンと二人でラギニヤを引摺つて入る。

タモラ (見送つて) さよなら、子供たち。しつかり物におし。アンドロニカス一家のやつらを残らず方附けてしまはないうちには、ほんとに愉快な氣持にやなれない……。これから往つて、あの可愛いムーアをさがさう、その間にいきり立つてゐる倅たちが、あの淫婦をやつつけるだらう。

一方へ入る。

アロンがクインタスとマーシヤスを連れて、他方から出る。

アール ささ、早くおいでなさい、早いほどいゝ。すぐ其いやアな坑へ御案内します、豹が熟睡してゐやがるのをわたしが見た坑へ、

クイン どうしたのだから知らないが、目がよく見えない。

マーシ 俺もさうだ。世間體を思はなけりや、獵をやめて、歸つて、暫らく眠たいくらゐのもんだ。

といふ途端に踏みはづして坑へ落ちる。

クイン おやッ！ 落ちたのか？ 何て危険な、油斷のなんらん坑だ、口には茨が一面に掩ひかぶさつて生えてゐて、其葉にや生血が滴つてゐる、まるで草花に今灑ぎかゝつた朝露といふ風に！ こりや凄惨處らしい。おい、弟どうかしたかい、落ちて？

マージ お、兄さん！ 何ともかともいへない、情けない、怖ろしいものを見たので、目がどうかしてしまつた。

アール (傍白) どれ、王を呼んで来て、やつらを見付けさせよう、さうすりや、バッシ エーナスを殺したのは、あの二人だと見當を附けるに相違ない。
入る。

マージ おい、なぜ僕に力を添へて助け上げてくれないんだ、此血みどろのいやな坑から？

クイン (半獨語的に) 不思議な、何ともいへない恐怖に襲はれる。手足がぶる／＼慄へて、冷汗が出る。目に見える以上の事が起りさうだ。

マージ その豫察が中るか中らんかを試すために、アールも君も此坑中をよく見て御覽、此血だらけの死人の怖ろしい姿を。

クイン アールは去つちまつたよ。俺は、惘然だといふ心が働くので、想像した

マージ だけで、もう身が慄へるやうなものを見る氣はない。お、！ どんなだかをお言ひよ。今が今まで、おれは、えたいの解らん物なんかを怖がるやうな子供ぢやアなかつたつが。

マージ バッシ エーナさんが殺されて倒れてるんだ爰に、仔羊の死骸で風に盛上つて、此いやアな、暗い、血びたしの坑の中に。

クイン 暗いのに、どうしてそれがバッシ エーナさんと解る？

マージ 血だらけの指に寶石の附いた指輪を穿めてゐなさるんで、坑の中が明るい。それが廟の蠟燭のやうに死人の土氣色の頬を照らして、坑の凄じい臟物を見せてくれる。ピラマスが處女の血を浴びて横たはつたあの晩の月の光りは、キツと斯んなに蒼白かつたらう。兄さん、僕を此、地獄河の薄暗い淵のやうな怖ろしい人食ひ穴から助け上げて下さい、君も僕も、怖ろしいので、手の力が脱けつちまつたかも知れないけれど。

クイン　　すつと手を伸ばしなよ、引き上げ得られるやうに。でなきや俺は引き上げるだけの力がないから、其深い魔の穴へ、氣の毒なバッシエーナさんの墓穴へ、俺も引摺り込まれてしまひさうだ。

マーシ　　僕アまた君が助けてくれなけりや、逆もそこまで登ツちやゆかれない。

クイン　　もう一度手を出しな。こんどア引上げるか、おれがおツこちるかするまで、放しやアしない。…え、來得ないか?…ちや、おれが往く。

といふ途端に穴へ落ち入る。

アロンが帝サタアナイナスに従いて出る。

サタア　　一しよに來い。どんな穴だか、又今飛び込んだのは何者だかを見よう。…(坑に近づいて) やい、だれだ、今こゝへ飛び込んだのは?

マーシ　　(穴の中から) アンドロニカスの倅です。不幸にもわるい時にこゝへ連れて來られて、圖らずも御舍弟バッシエーナさまが殺されておいでになるの

を發見しましたのです。

サタア　　え、弟が殺されてゐる! 戲談をいつちやアいけない。弟夫婦は此愉快な

森の北の方の假小屋にゐる。やつと一時間前に會つて來た。

マーシ　　どこで御存生中にお會ひなさいましたか存じませんが、あゝ、無慚な! ここに斯うして殺されておいでになりましたのです。

タモラが侍者を連れて出る。タイタス・アンドロニカスとルーシヤスが續いて出る。

タモラ　　王はどこにおいで遊ばす?

サタア　　こゝにゐる。が、身を斫られるやうな悲みに暮れてゐるところだ。

タモラ　　おとうと御のバッシエーナさまは?

サタア　　さう尋ねられると、窮所の痛手をゑぐられる思ひだ。バッシエーナはここに殺されてゐる。

タモラ

ちや、もう遅かつた、怖ろしい密書を持つて來ましたけれど。

と前にアローンから受取つてゐた偽筆の密書を帝に渡して
思ひもかけない怖ろしいわるだくみ。顔ではにこ／＼笑つてゐるのです
から、ほんとに、油斷がならない。

サタア

(讀む)「愛する獵夫よ、若し都合好く彼れに、といふはバッシエーナスなるが、
出會するの機を失ひなば、むしろ墓穴を掘るに如かず、其方は其眞意を
解し得るならむ。褒美は、バッシエーナスを埋よと命する所の件の坑の口
を掩へる楡の根元の蕁麻の裡に求めよ。事成就せば、永く其方を親愛す
べし。」

おゝ、タモーラ！ こんな例を聞いたことがあるか？……これが其坑だ。……
あれが其楡だ。……こゝら、この邊にバッシエーナスを殺した獵夫めはゐるな
いか、取調べろ。

アーロ

(楡の根元から前に隠しておいた金貨の囊を取出して來て)陛下、こゝに金囊がございま
す。

サタア

(タイタスに) 汝の残忍極まる狂犬の倅めらが俺の弟の命を奪つたのだ。……
こゝら、やつらを坑から引摺り出して、牢へぶち込め。さうして前代未聞の
嚴罰を思ひ附くまでは押込めとけ。

タモラ

(わざと驚いて) えッ！ あの二人が此穴にゐるのですか？ まあ、おそろし
い！ほんとに呆れた！ さうも早く人殺しは露見するものですかねえ！

タイタ

(跪いて)陛下、老いの膝を突きまして、容易に流さん涙を流しまして哀願し
奉ります、倅共の此大罪は、若し果して彼等がしたのでございませば、憎
みても餘りある……

サタア

したのでございませれば!! いふまでもなく、明白な事實だ。……此密書は
だれが発見したんだ？ タモーラ、え、あんたが？

タモラ アンドロニカス自身が拾ひましたのです。

タイタ さやうでございます。どうか手前を彼等の保釋人となし下されますやうに。祖先の墓を誓ひに掛けまして、誓言いたしまする、彼等は、必ずや一命を獻げまして、御嫌疑に對し、解答仕るでございませう。

サタア いや、保釋は許さん。さ、すぐ予に従いて參れ。……こら、死骸を運び出せ。下手人をも引上げる。一言もいはせるな。罪科は明白だ。死刑以上の嚴罰があるものなら、おれは誓つてそれを彼等に課さうとまで思つてゐるのだ。

タモラ アンドロニカス、わたしが歎願をしてあげます。息子たちの事は心配なさるな。大丈夫、助かりますよ。

タイタ (それを聞き流して) さ、ルーシヤス、來い。彼等と問答をするには及ばん。入る。

第四場 森の他の部面

デミトリヤスとカイロンとが辱められた後のラギニヤが左右の手首を切落され、其舌をも切取られて、半死半生の體でゐるのを引立て、出る。

デミト さ、其舌で物が言へるなら、歸つてつて話せ、だれが舌を切り、だれが手籠にしたかを。

カイロ 思つてゐることを書いて、斯うくだと知らせるがい、其切ツ株で筆が使へるなら。

デミト あれ、見な、いろんな身振をして譯の分らんことを空に書き散らしてぜ。
カイロ 歸つてつて、きれいな水を呼んで、手を洗ひな。

デミト 呼ぶ舌はないや、洗ふ手もないや。黙々で歩いてゆかせさ。

カイト これが俺なら首をくゝつて死んぢまふね。

デミト さア、繩を縛ふ手がありやアだ。

嘲りながら二人は入る。ラギニヤ半死半生となつて倒れてゐる。

と他方からマーカスが出る。ラギニヤはそれと知りて、あわてて起きあがり、よろめきつゝ逃げようとする。

マーカ

だれだ？ や、姪だ、あわてゝ逃げてゆくのは！……おい、姪よ、待てく。

パッシエーナさんはどこにおいでなさる？……(追ひ附いて、はじめて實情を見て、驚き呆れて)これが夢なら、有つたけの財産に代へても、目が覺したい！

起きてゐるのなら、どツかの惑星よ、おれを撃ち殺して、永久の眠りに入らせてくれ！……これ、姪よ、どこの残忍な、酷いやつがおまひの此二本の可

愛い枝を、此綺麗な飾りを、此幹から叩き切つてしまつたぞ、此枝蔭に圍まれてなら帝王でも眠りたがり、おまひに可愛がられるのを此上もない幸福と思つたのであつたのに！……これ、なぜ返辭をしない？……あゝ、無慚な！ 温い血の赤い流れが、泉が風で沸き立つてぶくくいふやうに、薔薇のやうな唇の間から出たり引込んだりする、蜜のやうな息と共に。きつと何處かのチーリヤスめがおまひを玉籠にして、さうして露見を恐れて舌を切りをつたに相違ない。あゝ、恥かしがつて顔をそむけるか！ 血をそんなに、三ヶ所の樋からのやうに、失してゐながら、おまひの頬は、雲霧に逢つた時にパツと赤らむ日神のやうに赤く見える。え、おれが代つて言つてやらうか？ 斯うくと言つてやらうか？ おゝ！ おまひの心が知りたい。其けだものめを知りたい。思ふ存分罵つてやりたい。いふにはれん悲みは、塞いだ竈のやうに、心臓をば、其在處で、消炭になるまで、燃し

盡す。あのフィロミラは、たゞ舌をなくしただけであつたから、おツクうにも刺繡の見本へ思ふことを針で縫つて見せたといふ。けれども姪よ、おまひはそれも出来ない。おまひが出逢つた悪智慧のチーリヤスめは其可愛らしい、フィロメルよりは縫ふことも器用であつた筈の指を、みんな切落しをつた。おゝ！其人非人とても、若しあの白百合のやうな手首が、山ならしの葉のやうに琵琶の上に戦いで、絹の線が嬉しがつてそれをキッスするのを見をつたなら、命に掛けても、切落さうとはせなんだであらうに！ または、その懐かしい舌の、神々しい妙音を聞いたなら、思はず小刀を取落して、眠入つてしまひをつたであらう、あのサアベラス（地獄の門を守る犬）がオルヒューズ（古代の名樂手）の足元に眠入つたやうに……さ、さ、往つて父さんを盲にするんだ、此有様を實父が見たら目が潰れツちまふだらう。暴風雨が一時間つゞくと、牧場ぢうの香ひのいゝ花がめちやく〜になつてしま

ふが、涙が何月も降りつゞいたら親の目はどうなるだらう？……これ、逃げるな、みんなで一しよに泣くんだ。おゝ！泣いてやつて其惨めさが慰められるものならなア！

半死半生のラギニヤを介抱しつゝ入る。
 ギリシヤ神話をオギツドが其變形物語で語つてゐる所による
 と昔、スレースの王にチーリヤスといふがあつた。其妃をプログ
 ニーといひ、妃の妹をフィロミラといつた。王がフィロミラに
 横戀慕をした結果暴力で辱めて、露見を防ぐため其舌を切
 取り、ある塔の裡に幽閉した。けれどもフィロミラは幸ひに
 両手が使へたので、恰も刺し掛けられてあつた刺繡の一標
 本へ針と糸とで暴行のあらましを縫ひ綴り、便宜を得て、そ
 れを姉の許へ送つた。で、姉は計略を運らして、妹を救ひ出
 すと同時に怖ろしい復讐を企てた。すなはち先づ手づか

ら王の實子の幼兒を殺して其肉を調理し、それを夫に食は
 せた。するとフロミールが其斬り首を卓上へ投げ出して、汝
 の食つたは是れだぞと罵つた。チーリヤスが駭き怒つて二
 人を殺さうとする、姉は忽然として燕と化し、妹は妙音鳥
 となり、チーリヤスみづからも鷹と變形せしめられた。云々。
 沙翁が此古傳傳の意を如何に多く此作に取り入れてゐるか
 は、後段を讀めば敢て説明するにも及ぶまい。

*
 * *
 * * *
 * * * *
 * * * * *
 * * * * * *
 * * * * * * *
 * * * * * * * *



第三幕 第一場

第三幕

第一場　ローマ　街上

元老けんらう議官ぎくわんら、護民官ごみんくわんら、裝判官さいはんくわんら、び、マーシヤスとクインタスを縛しばつて引立ひきたて、刑場けいぢやうへと通過つうくわする。　タイタスは彼等かれらの行く先ゆききへ廻まはりくして哀願あいぐわんする。

タイタ　元老けんらうがた、どうかお聴きき下さい。　護民官ごみんくわんたち、どうか暫しばらく！　若い時わか分ぶんに、ローマの爲ために危き険けんを冒をかし、諸君しよくんをして安眠あんみんせしめた手前てまへの老後らうごを御憐ごれん憫みん下くだされて、外敵ぐわいてきを防ふぐためにあらゆる嚴冬けんたうの夜々よるくを徹夜てつやして看守かんしゆし、鮮せん

血の有る限りを灑ぎました功勞をお思ひ下されて、現に此老いたる皺面に溢れをりまする苦い涙を哀れと御覽下されて、倅共の罪を御宥免下されたい。彼等は決して御推定になつたやうな不義非道の者ではございません。既に倅を二十二人失ひましたが、彼等は皆名譽の戦死を遂げたのでござつたから、手前は歎きませんでした。だが、護民官どの、こいつらの爲には（と半狂亂のやうになつて、地上に身を投げ伏して）此土へ、心の底の惱みを書き附けます、魂ひの最底から出る涙を書き附けます。

元老らは、これにかまはず、通り過ぎてしまふ。

おれの此涙を飲ませりや、いかな乾き果てた土でも満腹しをるだらう。可愛い倅どもが血を流しやア、いかな土めも恥ぢて赤くなりをるだらう……

ルーシヤスが、拔劍を持つて出る。

（元老らは通過してしまつたのに、委細かまはず）お、護民官たち！ 寛仁大度の故

老諸君！ 倅共の繩を解いて下さい！ 死刑をまぬかれさせて下さい。曾て泣いたことのない自分に、成程涙ほど雄辯な歎願者はないと言はせて下さい！

ルーシ お、お父さん、歎願なすつたつて駄目です。護民官は聴いてやしません。だあれもそばにやゐませんよ。あなたは石に愁訴しておいでなされるんです。

タイタ あゝ！ ルーシヤス！ おまひの弟共の爲に歎願してるんだ。…老護民官諸君！ 改めて歎願します……

ルーシ お父さん、護民官なんか一人だつてゐやしませんよ。あなくつたつてかまはん。ゐたつても聴いちやくれまい。聴いたからつて、憫れんぢやくれまい。けれども言はんけりやならん、たとひ無駄であつても……だから、おれは此石どもに向つて愁訴するんだ。こいつらは

どういふ返辭もしてくれんけれど、護民官共よりや幾らかまりました、おれの言ふことを邪魔しようとはせんから。おれが泣くと、やつらは、おれの脚下でおとなしく涙を受けてくれて、おれと一しよに泣いてるやうに見える。若しやつらに威嚴のある地味な服を着せりや無類な護民官が出来さうだ。石は蠟のやうに柔和だが、護民官共は石よりも頑固だ。石は黙つて、何の害をせんが、護民官共は舌があるから、人間に死刑を言ひ渡しをる。(やつと起き上つて)だが、汝は、なぜ劍を抜いて立つてるんだ？

ルーシ

弟らを死刑から救はうとしたんです。すると、裁判官のやつらが、わたしを永久に國外に放逐すると宣告しやがつたんです。

タイタ

あゝ、そりや仕合せなこつた！ 汝は深切にして貰つたんだ。なぜツて、馬鹿なやつだ、氣が附かんか？ ローマはまるで虎伏す荒野原だ。虎には是非餌食が要る。處が、ローマちうに、餌食といつては、われく親子ばかりだ。

して見りや、その虎どものをらんところへ遣られる汝は、何といふ仕合者だ！ (二方を見て)、だれだあそこへ來たのは、弟のマーカスと一しよに？

マーカスがラギニヤを連れて出る。

マーカ

これ、タイタスどの、其老いの目で存分に泣くか、でなきや、其心臓を破裂させる覺悟をなさい。あなたを老い朽ちさせてしまひさうな情けない物を持つて來ました。

タイタ

なに、わしを老い朽ちさせる？ さ、それを見せて下さい。

マーカ

これがあんたの女の成れの果です。

タイタ

……なるほど、女に相違ない。

ルーシ

おゝ、まア！ 見てゐると死にさうだ！

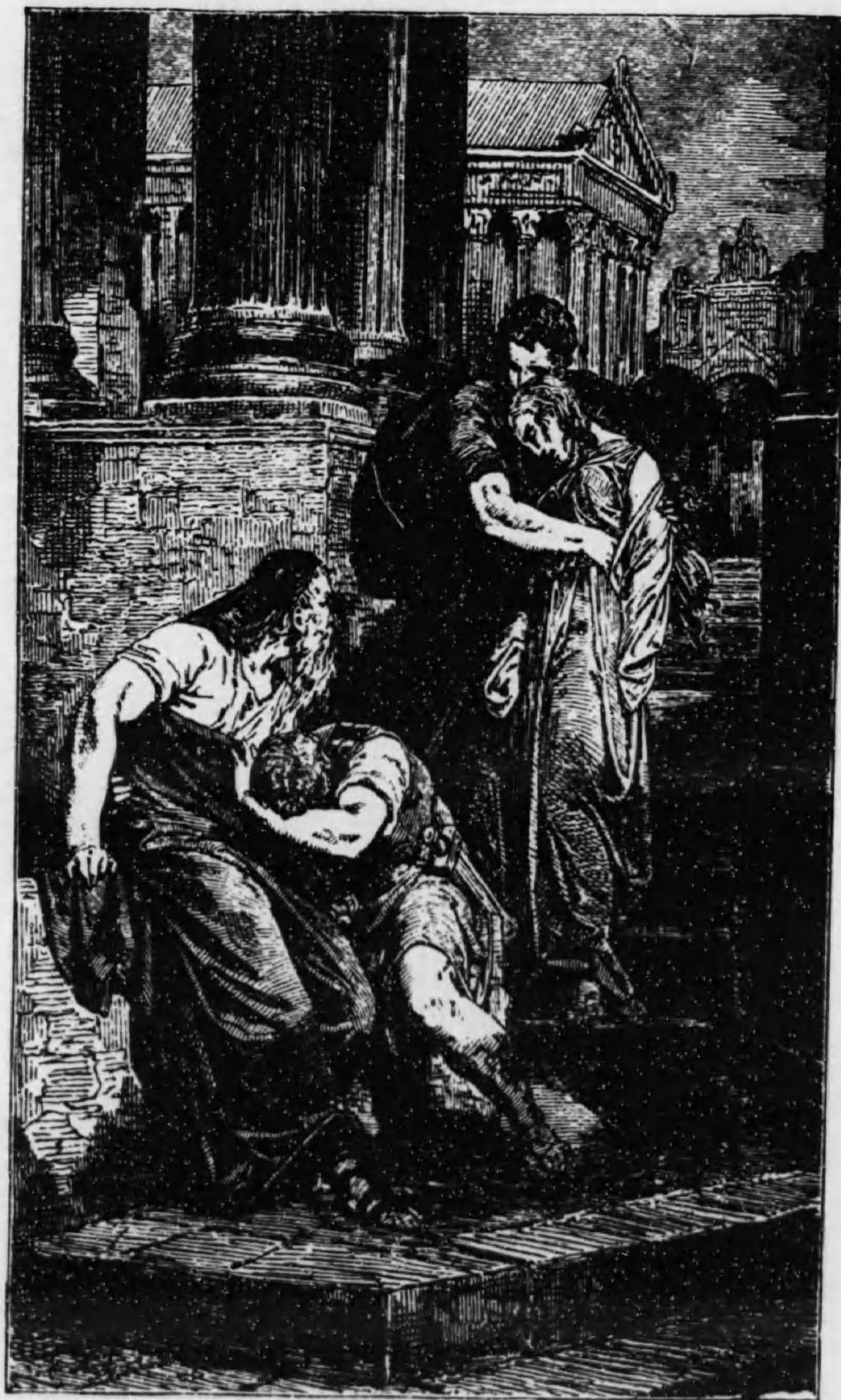
顔を掩つて突ツ伏す。

タイタ

えい、弱蟲めが、起きろ！ 起きてよく見ろ。……これ、ラギニヤ、どこの、どいつの憎い手が汝を斯んな手無しにして、現在の親に見せをつたか？ 大海へ水を、燃え盛るトロイへ薪を持たむ馬鹿者はどこのどいつだ？ おれの悲みは汝の来る前に既に頂點に達してゐたが、今はナイルの汎濫同様、限りも境もありやせんわい。やい、劍をよこせ。おれの此二本の手も叩き切ツちまふ。この手めはローマの爲に無駄働きをしたり、生中俺に物を食はせたりして、こんな不仕合せを育てをつた。何の役にも立たんのに、祈禱をするとして、何度此手を舉げたか？ つまり、おれの爲にや何の用をもせなんだ手だ。さ、今こいつらに命ずるのは、互ひちがひにぶツ切る役目だ。やい、ラギニヤ、手をなくしたのを歎くな。手は、ローマに奉公をする手は、無駄なものだ。

ルーシ

いもうと、だれがおまひをこんな目に逢はせたんだ？ え？



タイタ

えい、弱蟲めが、起きろ！ 起きて、よく見ろ。

マーカ

おゝ！ 彼女のあの思ひを傳へる機關は、愉快に能辯に思ひを語つたあの舌は、あの可愛い咽喉から切落されてしまつたのだ、籠に飼はれてる妙音の小鳥のやうに聞く者の耳を魅惑して、いろんな唄を聞かせてゐたのに。おゝ！ ぢやア、あれに代つて話して下さい、どいつがこんなことをしをつたかを。

ルーシ

おゝ！ わしは、彼女が此姿で、森をうろついてゝ、わしを見ると、手負ひ鹿か何ぞのやうに、逃げかくれようとしてゐるのを見附けたのだ。

マーカ

タイタ

あゝ、さうだ鐘愛だ、おれの鐘愛だ。こいつに手を負はせたやつめは、おれを殺す以上に苦しめをる。おれの今の心持は、荒海の真中の岩に乗かつて、一浪毎に段々激しくなる高潮を見おろして、今にも鬼々しい浪めが其鹽ッばい下ッ肚へ俺を呑込むかと待ち構へてゐるんだ。あッちへは慘めな倅共が殺されるために引かれていつた。こゝにはもう一人の倅が追放

人になつてゐる。それからこゝに弟がおれの不仕合せを泣いてゐる。だが、一等手きびしい打撃をおれの魂ひに與へたのは此ラギニヤだ、おれの魂ひよりも大事なラギニヤだ。汝のさうした晝姿を見ただけでもおれは氣ちがひになつたらうに、さうした生き身を見て、おれはどうならう？ どうしよう？ 涙を拭く手もないか！ だれがそんな目に逢はせたかを話す舌もないか！ これ、おのしの夫が殺されたので、兄たちは其罰で、死刑をいひわたされたぞよ。今頃はもう死んだらう。(ラギニヤ類りに落涙する) ……

：おゝ、マークス！ ルーシヤス！ あれを見い。おれが今、兄たちといつたら、あれの目に又新たに涙が溜つた、もう大概凋んでる百合の花に毒蟲が分泌する甘露が溜つたやうに。

兄弟が夫を殺したといふので泣くんでせう。いや、事によると、冤罪だといふことを知つてゐるから、泣くのかも知れない。

マーク

タイタ

これ、兄たちがおまひの夫を殺したのか、それなら、喜べ、國法が敵を取つてくれるから。いや、あれらがそんな非道なことをする筈はない。…

：こゝら、彼女のあの泣き方をよく見い。…ラギニヤよ、其唇をキッスしてやらうか？ どうしたら心が慰むか、これ、身振か何かしろ。叔父さんや兄やおれが、おのしと一しよにどこかの泉の縁にしやがんで、中を見おろして、めいゝの頬邊が、涙で以て、どんなに汚くなつてゐるかを見ようか、洪水が遺していつた沼泥のまだ乾かん牧場のやうな面を？ さうして長く見詰めてゐようか、落す涙で、其澄んだ水に清新な味がなくなり、とうとう鹹っぱい泉になつちまふまで？ でなきや、おのしとおなじに、おれたちも手を切つちまはうか？ 舌を咬み切つて、身振りや手眞似ばかりして、此厭アな餘生を送らうか？ どうすればいゝ？ 舌のあるおれたちに、何かもつとく、惨めになる工夫をさせてくれ、世間のやつらが見て驚き呆れ

るやうな工夫を。

タイタス 半狂亂のやうになつて歎く。 マーカスもルーシヤスも泣く。 ラギニヤも身もだえして、しやくりあげて泣く。

ルーシ (泣きながら父を制して) もし、お父さん、もうそんなにお泣きなさるな。 あなたがそんなに泣くから、妹めがあんなにしやくりあげて泣きます。

マーカ これ、姪よ、がまんしなく。……タイタス、もう涙を拭いておしまひなさい。

マーカス 手巾でタイタスの涙を拭はうとする。

タイタ あゝ！ マーカス、マーカス！ 汝の其手巾ちや俺の涙を拭くわけにやいかんよ、もうそりやおまひの涙で、まるでびしょ〜になつちまつてるぢやないか！

ルーシ (妹の傍へ寄つて) ラギニヤよ、おれが其頬を拭いてやらう。

ラギニヤ いろ〜に身振して何事かを傳へようとおせる。

タイタ あゝ、マーカス、あれを見な、マーカス！ あの身振はおれには解る。舌がありや、きつと今おれが言つた通りのことを兄に言はうとしてるのだ、兄の手巾は、涙でびしょ〜になつてるから、彼女の涙だらけの頬をばどうするとも出来ないのだ。 おゝ！ 何といふ親子骨肉一同の不幸災厄だ是れは！ 助かるて見込みは、地獄の境が天國から遠いほどに遠い。

アーロン 出る。

アーロ タイタス・アンドロニカス、陛下の命ですぞ、倅共が可愛いなら、マーカスなり、ルーシヤスなり、おまひなり、誰れでもいゝ、みづから其手首を切つて王へさしあげれば、それを倅共の不埒の償ひとなされ、其代りとして、王は倅共二人を生かしてお返しにならうとおほせられる。

タイタ おゝ、仁愛深い陛下！ おゝ、やさしいアーロン！ 鴉が雲雀のやうに、

あの日出を知らせる可愛い雲雀のやうに、囀つたことが曾であつたか？
わしは喜んで此手首を献上する。アロンどん、手を貸して斫つて下さい。

ルーシ (あわて) ま、お待ちなさい！ あなたのその、國家の大敵をあんなに屢打
破つたあなたの其手は、決して遣るわけにやいきません。わたしの手を役
に立てます。わたしは若いから血を失しても大して弱りません。だから、
此手で弟たちの命を救ひます。

マーカ いや、おまひのは、右だつて、左だつて、ローマを防いで、敵の兜へ破滅を表
示する大戦斧を揮上げた手だ！ お、どつちの手にも大功績がある。わ
しの手は何にもせなかつた。これで以て二人の命を受け出さう。さうす
りや、けふまで保存してゐたのが有意義になるから。

アーロ さ、さ、早く決めておしまひなさい、だれの手をさし出すのかを、くづツかし



タイタ 手を貸してくれ、此手をおまひに渡すから、



タイタ 此おそろしい夢は、いつ醒めるか？

てると、赦免しやめんがおくれて、二人は死しんぢまふよ。

マーカ わしの手てを送おくります。

ルーシ いゝえ、決けつして送おくらせません！

タイタ これく、もう争あらそふな。萎しなびた草くさのやうな手てはひっこぬくはうが當然たうぜんだ。

だから、おれのを。

ルーシ お父とうさん、もしわたしを子こだと思おもつて下くださるなら、わたしに弟おとうとたちの助命じよめいをさせて下ください。

マーカ ねえ、亡父はうふ母ぼの苦勞くらうなされたことを思おもつて、わたしに弟おとうとたるの友愛いうあいを盡つくさせて下ください。

タイタ (思入しやういあつて) ちや、二人ふたりで相談さうたんして、どうとも決きめるがいゝ。おれは手てを切きらんことにしよう。

ルーシ ちや、斧のこを取とつて來こよう。

マーカ だが、それを使ふのはおれだよ。

ふたり入る。

タイタ おい、アールロン、こゝへ來な。おれはあれら二人を欺したのだ。手を貸してくれ、此手を汝に渡すから。

アールロ (傍白) かういふのが欺すのなら、おれは正直者なんだ、死ぬまでも人を欺すなんてことはあるまいから。だが、おれはちつと別口の欺し方をやらかすんだ、で、半時間と經たんうちに、あゝ遣られたと汝たちがいふだらう。

劍を抜いてタイタスの左の手首を切り落とす。

とルーシヤスとマーカスが小斧を持って戻つて來る。

タイタ もう争ふのは止めな。斫るべきものは斫つちまつた。アールロンよ、この手を陛下に獻じて、これは數千たびの危険から彼れを護つた手だといつて、埋葬して貰つてくれ。いや、それ以上の功勞がある。それをも認めて貰

つてくれ。あの大事の倅共が、これで買ひ戻されりやア、親としては、廉價に買った寶石だが、又、子である以上、高直でも(可愛くも)あると、さう言つてくれ。

アールロ さよなら、アンドロニカス。此手のおかげで、もう直に一しよになれるよ、息子たちと。(傍白) 息子たちの首とだ。おゝ、此わるだくみは想像したばかりでも身が肥る。拔作どもは折角善い事に努力するが、白い面のやつらは、たんと神助を願ふが、アールロンさまは、お面相當のお黒いたましひをお有ち遊ばしてゐようてんだ。

入る。

タイタ (跪いて) おゝ！ こゝに此一本の手を天に捧げ、又、此弱り果てた廢軀を地にこゝめて、いづれかの御神が此惨めな涙に御憐憫をお掛け下さりますならば、祈り奉る！(とラザニヤも拜跪する) や！ おのしも一しよに跪坐く

か？ ちや、可愛いやつ、さうしてくれ。天はきつとこちとらの祈りをお聞きなさるだらうから。聞いて下さらんけりや、吐く溜息で大空を曇らせて、太陽を濛々とさせてしまはう、雲めがあのですぐ溶ける胸元へ太陽を抱きしめる時にするやうに。

マーカ おゝ！ 兄さん、有り得る程度の事をおいひなさい、そんな極端なことをおいひなさるな。

タイタ 此おれの不仕合せが無類、極端でなからうか？ 極端な不幸を歎くんだから、極端なことをいふのが當然だ。

マーカ だが、そこをその、道理で以てお制しなさらなければいけない。此重ねくの不仕合せに、せめて道理でもありや、まだしも、悲みが堪へ可いだらうに。これ、天が泣き出しやア下界に水が溢れる。風が吹き荒れりやア海があばれ出して膨脹して、大空を脅す。え、其騒動の道理を知ら

うといふのか？ おれは海だ。そら、彼女のあの溜息は風だ。彼女は泣いてる空だ。おれは地だ。溜息の風が強けりやアおれの海が荒れないわけにやいかん。天がしつきりなく涙を流しや、地のおれに大水が出て、溺れないわけにやいかん。逆も此下ッ肚にや彼女の不仕合せをしまひ込んちやをかれんわい、酔ッばらひのやうに吐き戻さんわけにやいかんわい！ だから忍耐してくれ、負けた者は毒口でも叩かんけりや腹が癒えん！

半狂亂の體で歎く。

使者役が首級二つと手首一つを持って出る。

使者 アンドロニカスどの、折角此れを御獻じになつたが、其效もなく、お氣の毒です。御息たちの首級とあなたの手首とを、嘲弄の爲に、御返却なされるのです。あなたの歎かれるのを慰みとし、あなたの勇氣を嘲弄の種となされるのです。あなたの情けなさを思ひやると、家父の最期を憶ひ出

す以上に情けない。

と言ひすてゝ入る。

マーカ シ、リーのエトナよ、噴火を止めるな、此胸をば焦熱地獄にしてくれ！ か
ういふ不仕合せが重なつちやア、もう逆も忍耐が出来ない！ 同感して泣
いてくれる者があれば、幾らか心が慰められるが、悲しみのを嘲けられるの
は、二度殺されるも同然だ！

ルーシ おゝ！ これを見せつけられたので、忽ち此胸に深手を負つたのに、どう
して息の根がとまらないのか？ 只機械的に息だけしてるんだ、なぜ此い
やアな命めが、一思ひに死んぢまはんのか？

此時、ラギニヤは、餘りの事に呆れて惘然としてゐるタイタスな
抱いて、キッスする。

マーカ あゝあゝ！ 可哀さうに、キッスをしても、飢えた蛇に凍り水だ、何の慰め

になるものか！

タイタ (惘然として) 此おそろしい夢は、いつ醒めるか？

マーカ もう氣休めをいつちやをられん。これ、アンドロニカス、死になさい。こ
りや夢ぢやアない。御覽、その二人の息子の首を。勇敢であつたあんたの
其手を。そこにある切りさいなまれた女を。此淺ましい有様を見て、ま
るで血の色をなくしてゐる追放人の其息子を。弟のわたしは、まるで石の
像だ、冷くなつて、痺れツちまつてゐる。あゝ！ もうお歎きなさるな、
んぞとは言はない。其銀色の髪を掻きむしるなり、其一本の手を咬み裂
くなり、勝手になさい。此凄惨な有様が淺ましい目の見收めです。もう
これからは暴れるんだ。……なぜジツとしておいでなさる？

タイタ はゝゝゝゝゝ！

マーカ なぜ笑ふんです？ 笑つてゐる場合ぢやない。

タイタ

だつて、もう俺にや涙はない。それに、愁歎は仇敵だ、殊勝らしく持掛けて、涙でさんぐに目を荒らして、何にも見えんやうにしてしまひをる。どこに復讐の洞があるかも知らんやうにしてしまひをる。あゝ、此二つの首は、おれに向つて、おまひは迎も幸福にはなれんぞ、此酷い事をしをつたやつらの咽喉をまア此通りにせんうちは、迎も幸福にやなれんぞと威嚇してゐるやうだ。……こら、どういふことをしたらいいか？ さ、みんなが俺を取巻いてくれ、おのしたちの顔を一人々々に見て、誓言をするから、きつと敵を討つてやると。さ、もうこれで誓言はした。弟、そつちの首を取りあげてくれ。おれは此手でこつちのを持つから。……ラギニヤよ、おのしにはいろく用がある。さ、おれの此手を其齒でくはへて、一しよに來てくれ。倅、汝は、早くおれの目に見えんとこへ往つてくれ。追放されたんだ、こゝにゐちやならん。急いでゴッスへ往つて、兵を起せ。おれを親と

なつかしんでゐるなら、さ、キッスをして、早く往け、お互ひにいろんな仕事をせんけりやならんぞ。

タイタス、マールカス、ラギニヤ入る。

ルーシ

(見送つて)おや、御機嫌よう、お父さん！ 此ローマで曾て聞いたことさへもない不仕合せな、氣の毒な人だ！ さよなら、ローマ！ 又歸つて來るまで、命よりも大切な質を遺してゆくぞよ。……さよなら、妹、ラギニヤ。お！ もとの通りの體でゐたなら！ おまひもおれも、これからは、世に忘れられて、辛い、怨のしい日を送るんだ。が、此ルーシヤスが生きてる以上は、きつと敵を取つてやるぞ。さうしてあの傲慢なサタアナイナスとあの后めに、タイクインと其妃がしたやうに、市門で哀を乞はせてくれる。……これからゴッスへ往つて、兵を募つて、ローマとサタアナイナスとに復讐してくれ。

入る。

第二場 同處 タイタスの家の一室

宴會の準備が出来て、食卓が据ゑてある。タイタス、マーカス、ラ
ギニヤ、ルーシヤスの俵で同じくルーシヤスと呼ぶ少年が出る。

タイタ さうく。 さ、お掛け。 あんまり餘計に食ふまいぞ、復讐に必要な氣力と腕力を養へばそれでいゝんだ。 マーカス、ふさぎ込んで腕組みをするのは止めなさい。 おれや女は惨めだ、手がなから、悲しいことが幾組あつても手を組むことは出来ん。 残つてる此右の手めは、おれの此胸を折々酷い目に逢はせをる。 心臓めが、あまりの情けなさに、氣ちがひのやうになつ

て、此肉の牢を突き破りさうになる、と俺が斯う（と胸を右の手で強く打つて）なぐり附けてくれるんだ。（ラギニヤに）こら、身振ばかりで話をする不仕合せな畫像よ、おのしは、どんなに心臓があばれをつても、斯ういふ風に叩き鎮めることも出来んなう！ ひどい溜息でもして奴に傷を負はせてやれ。 うんうん唸いて、奴の息の根をとめてやれ。 でなきや小刀を其齒でくはへて、ちやうど心臓のある處へ穴を開けるといゝ、さうして目から落ちる其涙を其穴へ流し込んで、沁込ませて、苦い涙であの泣蟲の馬鹿を溺死者にしツちまひな。

マーカ これ、馬鹿なことを、兄さん！ かよいい體へ、そんな自暴自棄の手を、假にも下すことを教へちやいけません。

タイタ おやく！ 愁傷の爲におまひはもう耄けたのか？ これ、氣違ひめいてるのは俺ばかりだよ。 自暴自棄の手を下さすなッて？ あゝ、あれにどん

な手がある？ トロイの城が焼け落ちて無慚な身の上となつた話をイーニヤスに二度させるのか？ おゝ！ 手の事なんか言ひ出して手の無いのを憶ひ出させてくれるな。 あゝ、何を馬鹿な！ おれは氣ちがひめいたことをいつてゐるわい、マーカスが言はんかッて、手の無いとが忘れられるものかい！……さ、さ、食はうぜ。 娘さん、おあがり。 飲む物は何にもないぞよ。 あ、マーカス、彼女が何か言つてる。 あの苦悶の符牒は俺にはよく解る。 彼女が、飲む物としては、悲みで醸して頬で溶した涙より外にはないと言つてるのだ。(ラギニヤに) 物をいはんで、泣いてるおのしよ、いはうとしてることは、解つてるぞよ、今に俺が其身振をすッかり呑込んでやる、山住みの老僧がお祈りの式一切を心得てゐるやうに。 溜息をする、切ッ株を天へ向ける、目をねぶる、うなづく、膝を突く、表情をする、そのたびに俺が考へて、だんくんにアルファベットを編み出して、何でもおのしのいふこ

とが解るやうにしてやるわい。

少年 (泣き出して) お祖父さん、そんな悲しいことはッかりいつてゐないで、何か面白い話をして、叔母さんを嬉しがらせるやうにしてあげよう。

マーカ あゝあゝ！ 子供ながら、お祖父さんが泣くのに動かされて、泣いてゐる。やさしい心立だ。

タイタ これ、泣くな、ちびよ。 おのしは涙だらけだ。 そんなに泣くと、今に體が涙で溶けッちまふ。……

此時 マーカス、皿をナイフで突く。

何を突くんだ、マーカス、ナイフで？

マーカ 今殺したやつをしとめてるのです、蠅を。

タイタ えイツ、とんだ殺生をする男だ！ おれの心を突き刺すんだそれは。 おれの目は残酷なもので食傷してゐる。 罪もない者を殺すやうぢや、此タイ

タスの弟でない。出ていッちまひな。此仲間には入れん。

マーカ 何をおいひなさる！ 蠅を殺したばかりですよ。

タイタ その蠅にも親父やお袋があつたとしたら、どうだ？ きやしやな金びかり

の翼をすぼめて、親めが、どんなに悲しがつて、ブン〜ブン〜飛び廻つて、觸れ廻るか！ 何の悪さもせん可哀さうな蠅……可愛い、細い聲で歌

つて、興を添へようとして来たののだに！ それをおまひは殺しッちまつた。

マーカ 濟みませんでした。が、真ッ黒な、いやアな蠅でした、後の氣に入りのム

アのやうな。だから、つい殺したのです。

タイタ お〜〜〜！ ちや、叱つたはうが濟まなかつた。殺したはうが功

徳だ。その小刀をよこせ。おれもやッつけてくれる、ムーアめがこちらら

を毒殺しようとして來をつたのだと思つて。(蠅の死骸をナイフで突きつゝ) さ、こ

りや汝への返報だぞ。(又一つ突いて) こりやタモーラめへ。あゝあゝ！ こ

ら、見い。でもまだこちららは零落はしきらないぞ、此通り蠅めを誅戮に及んだ、ムーアの黒ン坊に化けて來をつた蠅めを。

と半狂亂のヤウになつて勇み猛る。

マーカ (獨語的に) あゝあゝ！ 氣の毒な人だ！ 愁歎のために氣が變になつたと見

えて、たわいもない影を實物のやうに思つてをられる。

タイタ さ、これをそつちへ……ラギニヤよ、一しよに來い。おのしの部屋へゆか

う、さうして一しよに昔の悲しい話の本を讀まう……これ、小僧、きさまも來い。きさまは若いから目がいゝ、おれが讀み疲れたら、後を讀んでく

れ。

はひ
入る。

* * * * *

第四幕

第一場 ローマ タイタスの庭園

タイタスとマーカスが出る。と少年ルーシヤスが二三巻の書を引ツカへて逃げて出る。

少年 お祖父さん、どうかして下さい！ どうかして下さい！ ラギニヤの叔母さんがおツかけて来るの、どこへでもく、なぜだか知らないけれど。マーカスの叔父さん、あら、御覽なさい、もうあそこへ来たの。(といふうちに、ラギニヤがおツかけて出る。少年ルーシヤスはおどくして) あゝ、叔母さん、どうしよう

てイの？

マーカ (ルーシヤスを庇つて) おれの傍にゐりやいゝよ。叔母さんを怖がるにや及ばん。

タイタ 彼女はおのしを可愛がつてるから、どうしよう筈もない。

少年 お父さんがゐた時分には、可愛がつてくださつたけれど。

マーカ 姪はあんな真似や身振をしてるが、どうしようといふのだから？

タイタ ルーシヤスよ、怖がるな。何か譯のあることだ。見ろ、ルーシヤス、汝へ、

あれ、あんなにいろんなことをして見せてゐる。どこへか一しよに往つてくれと言つてるやうだ。あゝ、小僧よ、慈母のコオネリヤだつて、彼女が汝に面白い詩やタリーの『雄辯家』を讀んでくれたやうには、逆もあゝ深切には、子供らに書を読んで聞かせはせなんだのだ。

マーカ (少年に) なぜあゝ、おまひに何か頼むやうな様子をするか、推測が附かん

少年 叔父さん、わかりませんか？ え？

叔父さん、わかりません。推測も付きませんが、気がちがつたのか、病氣かでないけりやア。だつて、お祖父さんが幾度もおつしやつたんですもの、非常な悲しいことがあると、人は気がちがふつて。それから、書でも読みました、トロイのヘキューバといふお妃が悲しんで氣ちがひになつたてことを。だから僕怖くなつたんです、叔母さんは、母さんのやうに僕を可愛がつてくれてるんですから、気がちがひさへしなけりや子供なんかどうもしやしないんだと思つてるんですけれど、つい本を抛り出して逃げて來たの、何てこともなしにです。……ねえ、叔母さん、堪忍して下さい、マークス叔父さんが一しよに往つて下さりや、僕どこへでもお伴しますよ。

マーク

あゝ、ルーシヤス、おれが一しよに往つてやるよ。

此時 ラギニヤはルーシヤスが取落した二三巻の書を手首のな

い手で、あちこち頻りに繰りひろげる。

タイタ

どうしようといふのだ、ラギニヤ！……マークス、何をするんだらう？

何か見たいと思ふとがあつて、其書を探すのらしい。……これ、どれた、このうちの？……小僧、一々はぐつてやれ。……だが、おのしのはうが、よく讀んでゐて、よく知つてゐる。さ、書齋へ往つて、有りつたけの書を探して、悲しさを紛らしてゐな、神さまが大惡黨めをお知らせ下さるまで。……なぜあんなに續けさまに兩方の腕を擧げるか？

マーク

一人以上の者が共謀してしたことであつたと知らせようとするのでせう。いや、二人以上といふのであるらしい。でなけりや、復讐をして下さいと天に祈つてゐるのでせう。

タイタ

ルーシヤス、あれが頻りに翻らうとしてゐるあの書は何だ？

少年

お祖父さん、オギットの『變形物語』です。お母さんが僕にくれた書です。

マーカ

死んだ叔母をなつかしんで、特にそれを選び出したのだらう。

タイタ

ちよいと！ どうだあのせはしなげに、一枚々々、翻ることは！ 何を捜してゐるのかなア？ ラギニヤよ、読んでやらうか？ あゝ、それはフィロメルの可哀さうな話だ、チーリヤスめが悪心を起してフィロメルを手籠にしたことが書いてある。して見ると、おのしの苦患の原因はそれぢやアないかな！

マーカ

もし、兄上、御覽なさい！ あの二、二ページに頻りに注意を求めてゐます。

タイタ

ラギニヤよ、これ、おのしはさういふ風に、フィロメルのやうに、だしぬけに手籠にされて、恥かしい目に逢つたのか、あの情け容赦も知らん、だゝッぴろい、陰氣な森の中で？ 見ろ、あれを〜！……あゝ、さういふところがある、あの獵林の中には。おゝ！ あんなどこへ獵なんかに行かなけりやアよかつた、此書の作者がこゝに書いてゐる通り、ありや人殺しや強姦をし

マーカ

ろといはぬばかりの處だ。

おゝ！ どうしてあんな忌はしい魔窟を自然がこしらへておいたのだ？

神々は人間の悲劇を好まれるのか？

タイタ

むすめや、これ、身振か何かで知らせろ、こゝには内輪の者ばかりだ、ローマのどの貴族めがそんな酷い事をしをつたか？ サタアナイナスめが窃々と逃げて往きをつたのではないか、むかしルークリスを辱めをつたタークインめがしたやうに？

マーカ

姪よ、腰をお掛け。兄上、あなたもわたしの脇へ……アポローなり、パラスなり、ジョーヴなり、マーキュリーズなり、手前に靈覺を與へて、此悪人の發見せしめたまへ！……兄上、これを御覽なさい。ラギニヤよ、これを御覽。な、この砂ッ原は平ツたい。さ、出来るなら、わしのする通りに、これを斯うして。



と言ひつゝ持つてぬる杖を
足の爪先きと口とて操つて、
おのが名を書く。

そら、まるツきり手の助けなしで名を
書いたぞ。あゝ！斯ういふとをして
見せんけりやならんやうにさせをつた
やつめが憎い、怨めしい！……姪よ、さ、
書いて御覽、さうして、どうせ神さまが
お見あらはしにはならうが、おのし、復
讐の爲だ、名を書いてお見せ。……天よ、
どうぞ姪の筆を導かせられて、明白に
此災厄を書き現はさしめたまへ、其惡

人や惡事が明かに知れますやうに！

ラギニヤが口で杖をくはへて、手首の無い手で操りつゝ字を
地上に書く。

タイタ (つくづく見て) おゝ！ 讀んだか弟、そこに彼女が書いたことを？ (と讀む)。

Stuprum. (暴行) Chiron. (カイロン) Demetrius. (デミトリアス)。

マーカ やア〜〜！ あのタモーラめの荒淫無慚の息子どもが、此酷い、憎い
惡行の下手人であつたのか？

タイタ Magdi dominator poli, tam lentus audis sclero? tam lentus vides?

あゝ、天神の統率者よ、(ジュピターよ) 爾が罪惡を聞知するや斯くの如く悠
長に、之を看取するや斯くの如く緩漫なりや？

と狂氣のやうになりて、ラテン語で天神に訴へて、問え歎く。
マーカ おゝ！ 兄上、まア〜〜氣をお鎮めなさい、こゝに書かれたことを見ては、

どんな濃厚な心の者も暴れ出したくなるのが當然であり、どんな幼少な者
をでも怒り罵らせるに足るともいへるのだが。兄上、さ、わたしと一しよ
に膝をお突きなさい。ラギニヤもひざまづけ。坊よ、ローマの勇士の秘
藏子の坊よ、おまひも膝を突け。さっして一しよに祈つて下さい、あの昔
の、辱められた貞女ルークリースの氣の毒な夫や其父ジュニヤス・ブルー
タスが、相誓つてルークリースの爲に雪辱をするといつたやうに、さ、
一しよに誓ひませう、今に、十分案を定めて、あの奸悪無慚のゴッス共に復
讐をしよう、血を見ないではおかんぞ、でなきや此恥辱と共に死んぢまは
う！

タイタ
そりやキツとやつて見せる、どうすればといふ案さへ立てば。だが、あの
熊の仔を獵り出すなら、用心をしろ。母熊めがそれを嗅ぎ附けたりといふ
と、起きて来るぞよ。あいつは、今、獅子と極仲がよくつて、背後で悪戯を

しひく、うまアく寝かし附けて、其間にやどんな好きなことをでもしをる
んだ。マーカス、汝はまだ青い獵師だ。ま、じつとしておたはうがいよぜ。
さ、おれはどツか一枚の銅板を手に入れて来て、尖つた銅で此文句を書き
とめて、しまつとかう。今に、荒い北風が吹いて來りやシビル(豫言する妖婦)
の木の葉のやうに此砂を吹き散らしつちまふだらうから。……そこで、どう
いふことを學習つた？ え、小僧よ、どう思ふ？
お祖父さん、僕が大きくなりや、あの奴隷の悪黨めら、やつらが其母さんの
聞へ逃げ込みやアがつたつて、赦しやアしない。

マーカ
えらいく！ 感心々々！ おまひの父さんは、恩を知らん此國の爲に、
幾度もくさういふ事をしたんだ。

少年
叔父さん、僕が生きて、大きくなりやア、キツとさうします。

タイタ
さ、さ、おれと一しよに武器庫へ來な。ルーシヤス、おのしに似合ふのを見

少年 お殿さんがたへ申し上げます。アンドロニカスの吩咐によりまして、お二人さまへ謹んで御挨拶を申し上げます。(傍白)ローマの神様の罰で死んぢまやアがればいゝのに！

デミト 坊や、ありがたう。何か變つた事があるかい？

少年 (傍白)きさまらのした事が露見したんだ、それが變つた事なんだ。強姦をした悪黨だと解つたんだ。(大きな聲で)あのお祖父さんが申します、失禮ですが、手前共の武器庫から一等いゝと存じまする武器を選び出しましたので、ローマの力とおなり下さいますお若い方さまに、どうかこれがお氣に叶へばいゝかと申します。それでわたくしが持つて参りました、御入用の時に、お使ひ下さいますやうにッて。さよなら。(傍白)この悪黨めら！

少年 ルーシヤスと從者入る。

デミト (紙に目を附けて)何だこりや？ 一ぱいに書き散らしてある。かうつと。(と讀む)。

“Integer vites, scelerisque purus,

Non eget Mauri Jaculis, nec arcu.”

(潔白の人は、罪惡の痕跡なき者は、ムーアの投げ槍もしくは弓を以て身を護るの必要あらず)。

カイロ おゝ！ こりやホレースの句だ。よく覚えてるよ。ずつと以前に文典の例で讀んだ。

アーロ さうです、ホレースの句です。よく覚えておいでやすね。(傍白)驢馬(馬鹿者)て者は變な者だなア。(氣が附かんらしい)こりや笑つて聞き流される洒落ぢやアないの！ 老爺め、あの二人の惡事を嗅ぎ附けたな、で、あんな句を卷き附けた武器を持たせてよこしたのだ、當人たちはうツかりしてるが、窮所をお見舞申してるんだ。若しあの機敏い后が日經つてゐたなら、此アンドロニカスめの空想を賛成するだらうが、ま、それまでは、不安のまゝで

安息なさいだ。(大きな聲で)ねえ、お二人さん、外國人のこちとらを而も捕虜になつてローマへ引ッぱられて來たこちとらを、かう出世させて下さるてのは、餘ッほど有りがたいお運星さまですなえ！ 現在の兄貴の聽いてるところで、あの護民官めを怒鳴りつけた時なんかは好い心持でしたよ。それよりかあんなに偉がつてゐた將軍めが、こんなに阿諛つて、物を贈つてよこしたりするのを見るのが好い氣持だ。

ア—ロ (冷笑しつゝ)デミトリヤスさま、そりやその筈ですよ、あなたは彼奴の女をあんなに深切にしておやんなすつたのですもの。

デミト ローマの貴婦人めらを、残らずあゝいふ鹽梅式におツ詰めて、此方の御用向を勤めさせてくれたい。

カイロ そいつア、慈悲深い、愛情の籠つた望みといふものだ。

ア—ロ そこでお母さまが「ア—メン！」とおつしやりやア、首尾は上々といふわけ

でき。

カイロ お袋は、無論のと、もう二萬人ぐらゐはやつつけろといはアな。

デミト さ、ゆかう、さうして今産苦中のおふくろの爲に、神様たちにお祈りをしようよ。

ア—ロ (傍白)惡魔たちに祈つたはうがいゝぜ。神様たちはもうこちとらを見離してゐるから。

喇叭の盛奏が聞えて來る。

デミト 帝室附の喇叭が何故フラリッシ(二種の樂調)を吹き立てるか？

カイロ 多分、皇子が生れたんだらう。

デミト (一方を見て)ちよいと！ だれやら來た。

乳母が黒人の赤兒を抱いて出る。

乳母 御前さま、お早うございます。あゝ、もし！ あのムーアのアーロンさん

はるませんでしたか？

ア—ロ さア、ゐるとすりや幾らかはこゝにゐるよア—ロンは。さもなきやどこにもまるッきしゐないことにならア、ア—ロンに何か用かい？

乳母 おゝ、ア—ロンさん！ わたしたちは、もうく〜みんな駄目になッちまひましたよ。早くどうかして下さい。でなきやあなたの身の破滅ですよ！

此時赤兒泣き出す。

ア—ロ 何だそりや、まるで交接時の猫といふ聲をしてゐる！ 何をそんなに引ッ

くるんで、無きッちやうに持ち扱つてゐるんだ？

乳母 おゝ！ こりや神さまのお目にや掛けられない物です、お后さまの恥でもあり、此ローマ國の恥でもあるから。もし、お二人さま、お母さまがおオウみなさいましたよ。

ア—ロ (わざと聞きちがへた介て) 何になさらうツてために？

乳母 いゝえさ、御出産遊ばしましたのですよ。

ア—ロ (平氣で) そりやまア御安心様だ！ え、どんなお子がお生れなすツたんだ？

乳母 鬼兒よ。

ア—ロ ちや、お后は鬼のお袋さんと來てゐら。そりやおめでたい。

乳母 おめでたいどころか、物すごい、眞ッ黒けな、情けないお子さんです。(掩ひを少し除いて) これが赤兒です、いやアなく、まるで墓のやうよ、此國のうつくしい御婦人方の中へ持出しやア。お后さんからあなたのところへおよこしなすつたよ、あなたの證印が捺してあるんだから、短劍の尖で洗禮をおさせなさいッて。

ア—ロ 何いやがる、淫賣めが！ 色の黒いのがなぜわるいんだ？ (赤兒の顔を覗いて) おゝ、可愛い子だ、まるで美しい花の蕾だ。

デミト (ア—ロンを覗んで) 悪黨、汝はまア、何をしやがつたのだ？

ア—ロ (冷然と) おまひなんか、今更いまさらどうすることも出来できんことをしたんだ。

カイロ うぬ、おふくろを駄目ためにしッちまやアがつたな。

ア—ロ 何をいやアがる、おれは只ただしッちまつたッけた。

デミト 此畜生このちくしやう、それで以てお袋ふくろを駄目ためにしッちまやアがつた。おふくろの運うんの盡つきた、相手あいてもあらうに、穢けがらはしいやつを選えらんだものだ！……こんな汚きたらしい、いやらしい夜叉やしやの子こなんか！

カイロ 殺ころしッちまはう。

ア—ロ 殺ころさせるもんかい。

乳母 ア—ロンさん、生いかしちゃアおけませんのよ、お后きさきさまのお吩咐いひつけなんですすから。

ア—ロ えッ！ 生いかしちゃおかない？……ぢや、他人たにんにやア殺ころさせない、おれの血けつ肉にくなのだから、おれが手に掛かける。

デミト

いや、其その蛸斗たまたまじやくしめは、此細刃このほそみで貫つらぬいてくれる。乳母うは、こッちへよこせ。たッた一突ひとつききた。

ア—ロ そんなことをして見みろ、それよりも前まへに、おまひの臟腑ぞうふを引ひッくりかへしてやらア此劍このけんで……

といふやいなや乳母うはから赤兒あかごをひッたくつて、劍けんを抜ぬいて待まて、人殺ひところしの惡黨あくたうめら！ おまひらは弟おとうとを殺ころさうてのか？ こいつが生うれた時に空そらに爛々らんらんと輝かがやいてゐた其星そのほしを誓ちかひに掛かけて、やい、おれの此このはじめで、儲たくわけた後あと取り息子むすこを、假かりにも殺ころさうとしやアがるやつは、此銳利このれいりな鎌劍せみざいで、うぬ、たッた一突ひとつききたぞ。やい、二才共さいども、たとひ巨佐人エンヤラダスがあおその怖おそろしいタイフオン族ぞくの全軍せんぐんを連つれてやつて來きても、又またはあのハーキューリーズ乃至軍神ないしゆくさかみのマーズが此兒こいつをおれの手てからひッたくらうとしたッても、決けつして渡わたさん。何なんだと、赤あかッ面の薄うすッぺらな若僧わかぞうめら！ 白壁野郎しらかべやらうめ！ 麥酒エールの畫看板えかんばん

め！ 石炭色のはうが他の色より見識が上だぞ、他の色に染まらんといふ所が値打だ。白鳥の黒い脛は、大洋の有ツたけの水をぶっかけても、白かアならない、たとひ脛を浪の中に漬ッきりにしておいてもだ。お后にさういへ、おれの言傳だッて、おれはもう年配だから、自分が物は自分が世話アする、あんたの言ひぬけはい、やうになさいッて。

デミト きさまは主筋であるお袋を、そんな風に、薄情にうッちやつてゆかうてイのか？

アーロ 情婦は、たか ヲ情婦だが、此兒アおれ自身だ。おれの子供の時そつくりの元氣な赤ん坊だ。世界ちうの何よりも可愛い。世界ちうが何といはうと、人手にや渡さない。邪魔立すると、どいつかの爲にならないぞ。

デミト お袋は、これが爲に、永久に面目を失ッちまはア。
カイロ ローマ人が此不埒を知りや、お袋を憎み賤むに相違ない。

乳母 帝はお立腹遊ばして、お后を死刑にするとおつしやいますでせう。

カイロ そんな恥を掻くかと思ふと、顔が赧くなる。

アーロ それがおまひらの白い顔の色の特典だ。馬鹿々々しい！ 不實な裏切者といふ色だ！ なまなか赧く變りやアがるばッかりに、心の底の祕密がみんな露れてしまふ。ところが、此小僧と來ちや、全く別仕立の面をしてゐる。見な、此黒んぼめが親父の顔を見て、微笑いてるのを。「おちいちやん、わたいはおまひの子よ」といつてゐさうだ。こいつが君たちの弟だよ、君たちに生命を與へた其同じ血で立派に養はれたんだ、君たちが押込められてゐた其同じ下ッ肚から解放されて、日の目を見たんだ。母方といふ保證附の弟だ、よしんば面にや俺の證印が捺してあつても。

乳母 だつて、わたし、お后さんへ何ともお申しわけがないぢやないかねえ。
デミト アーロン、まアどうしたらいいか、汝一つ工夫してくれ。さうすりやおれ

たちは其意見にしたがふことにするから。おれたちに危険さへなけりや赤んぼを助けてもいゝ。

ア—ロ　ぢや、まア、腰を掛けて相談しませう。おれと侘は（と少し離れて腰をおろして）斯う風上へ掛けることにするよ。あんたたちはそこがいゝ。さ、どうしたらいいか、かを勝手に相談なさい。

皆腰をおろす。

デミト　（乳母に）此赤んぼを目撃した女は何人ほどある？

ア—ロ　それ〜。感服々々！ 仲間になつて仕事をする段になりや、わッしは仔羊だが、敵に廻すと、此ムーアは暴れ出した熊だ、山の獅子だ。大洋が脹れ上つたからつて、ア—ロンが怒つた程ぢやアない。…だが、今の一件だ。

乳母　此赤んぼを見た人間は何人ある？
産婆さんのコオネリヤとわたしの外には、お産み遊ばしたお后さま切りで

す。

ア—ロ　お后と産婆とおまひさんだな。二人なら秘密が洩れない、三人目があなくなりやア。さ、お后のそこへ往つて、おれがさういつたと言ひな。

と言ふや否や剣を抜て乳母を刺す。乳母は暫時伸いてぬて息が絶える。

へッ！　ヒー〜〜！　と冢めが哭かア、灸串に掛けられると。

デミト　ア—ロン！　何をするんだ？　なぜそんなことをしたんだ？

ア—ロ　これが智者のすることさ。此長い舌の饒舌婆を生かしておきや、こちとらの悪い事をしやべりちらすのは知れたことです。生かしておかれるものかね。ところで、わッしの肚をぶちまけますがね、こゝから遠くない處に、わッしの國の者で、ムーリてイのが住んでゐます。その男の妻がゆうべ子を産んだのですが、お袋に似て、あんたゝちのやうに色が白い。やつ

のそこへ往つて、其お袋に金をやつて、事情を打明けて、子供の出世になることだ、帝王さまのお世繼になるんだと話して、おれの子と取換へりやア、宮中で渦巻かうとしてゐる此暴風雨は静まりまさア。さうして其赤んぼをば自己が子だと思はせて、あやさせておきやいゝんだ。ねえ、わかつたかね。御覽(と乳母の死骸を指さして)薬はおれがくれたが、葬式はあんたゝちに頼むよ。野原は近いし、血氣壯ンのおんたゝちだ、頼みますよ。それが濟んだら、明日といはず、けふにも産婆のやつをよこして下さい。そいつと乳母とを方附けッちまへば、御婦人がたが何をおしやべり遊ばさうと御隨意だ。

カイロ

アロン、風にも心を置くといふ遣り方だな汝のは。

デミト

母の事をいろく心配してくれて有りがたう、母もおれたちも禮をいふぞ。

デミトリアスとカイロンは乳母の死骸を引摺つて入る。

アロー

さ、これからゴッスへ駈け落ちた燕子よろしくの素敏さで。抱いてゐる此寶物をあづけるのと内々で後の身方の者に會ふのが目的だ。ささ、厚唇の奴め、おのしを連れてつてやるぞ、おのしのお庇でこんなことになッちまつた。漿菜や甘い草の根や凝結つた牛乳(カード)や乳清(カード)を取つた残りの液で養つたり、山羊の乳を飲ませたりして、洞穴に宿せて、今に一軍をひきゐるやうな強い大將に育てあげてやるわい。

赤兒を抱いて入る。

第三場 同處 公街

タイタスが狂亂の體で走つて出る、(但しわざと狂氣を粧つてゐるのである)。手に澤山の箭を持つてゐる、其箭には一

本々々々書状が結び附けてある。つゞいてマークス少年ルーシヤス、マークスの作のバブリヤス、タイタスの近親のセムプロニヤス、ケイヤス、其他の縁者が、おのゝ弓を持つて追ッ掛けて出る。

タイタ

さ、さ、さ、マークス！ 親族たち、こっちだ〜。(ルーシヤスに) おい、小僧さん、さ、お手際を見せてくれ。いゝかい、うんと引き絞るんだ。さうすりや直だ。あゝ、*Terras Astraea reliquit*. アストリヤ(正義の女神)は最早此下界にはおいでなさらぬ！ こら、マークス、わかつてるか、アストリヤ(正義の女神)は去つておしまひなすつた、居なくなつておしまひなすつた。おい、みんな、道具を取つて。甥たちよ、おまひらは、大洋へ往つて、投網を投げて、探つて見てくれ。海中には居なさるかも知れん。けれども陸にや正義の影さへも見えん。いや、こりやバブリヤスとセムプロニヤスに頼まんけりやならん。鶴嘴と鋤で、掘つて〜、地球の一等奥の中心まで掘

り下げんけりやいかん。さうしてブルートー(地底の神)さんの領分へ行き著いた時に、此歎願書をさし出してくれ、正義のお裁きを願ひに來ました、願ひ人は恩を知らんローマに於て苦悶いたしをりまする老人アンドロニカスから參りましたとさういつてくれ。あゝ！ ローマよ、おまひを憐めな國にしたのは、あゝ、つまり、おれだ、帝王の推選權をあいつに、こんな酷い目に逢はせをるあの暴君めに濫用したのがおれの誤りだつた。さ、さ、早く往きな。みんな、ぬかるな。軍艦の中なんかも見落すな。悪王めが正義を船に載せて出してやつたかも知れん。ちや、親族たち、口笛を吹いて、正義を捜しにゆかう。

マーカ

おゝ、バブリヤス！ 情けないことだ、立派な叔父さんが、こんな淺ましい狂人になつてしまはれた！

バブリ

ですから、お父さん、夜晝とも、少しも油断は出來ませんよ、どうかしてい

い療治法が思ひ附かれるまでは、出来るだけやさしく機嫌を取つてより外に、しやうがありません。

マーカ 親族の諸君、兄の悲歎はどう慰めやうもありません。此上は、ゴッスと合體して復讐の兵を起しませう、さうして忘恩のローマを懲罰して、怨みをサタアナイナスに報いませう。

タイタ バブリヤス、どうしたい？ 諸君、どうしたのだ？ えッ！ 正義神さんに逢つたかい？

バブリ いゝえ、逢ひ得ませんでした、が、ブルートーさんが言はれますには、復讐神なら地獄にゐるから貸してもいゝ。だが、正義神は、あれは今天でジョーヴさんのところで使はれてゐるか、でなきやどこか他處にゐる、だから今すぐ呼ぶわけにやいくまいといはれました。

タイタ いつまでもおれを待たせておかうといふのは酷い。いや、おれは地獄の火



の湖へだつても潜つてつて、アケロン河（地獄の河）からでも彼女の足首を掴んで引ッ張つてくる。マークス、こちとらは灌木だ、老杉ぢやアない。一眼巨人のやうな巨大な骨組の人間ぢやアない。が、マークスよ、金屬だ、脊中までも鋼鐵だ、けれども其脊骨がひん曲るほどの非義非道に苦しめられてゐるんだ。もう此地上にも地獄にも正義なんかはゐないんだから、天に祈つて、神々たちの心を動かして、正義さんをよこして貰つて、怨みを晴らさう。さ、仕事にかゝらう。マークス、あんたは弓が上手だ……

と箭をめいゝへ分配す。

ジョーヴさんへ遣るのは、おまひへ。これは、アポローさんへ。マーズへのは、おれのだ。こら、小僧、パラスさんへ。これはマークュリーへ。さ、こりや、ケイヤスよ、サタアンへ遣るのだぞ、サタアナナスぢやアないぞ。まるで風に向つて射るやうなもんだ。さ、小僧！ マークス、俺が射ると

いつたら、放すんだぞ。大丈夫、役に立つやうに書いて、どの神さまにも願
ツといたんだ。

マーカ 親族諸君、宮中へ向けて箭をお放しなさい。多少でもあの威張つてゐる
帝の心を困めてやりたいから。

タイタ さ、諸君、引いたり。...

一同箭を放つ。

おゝ！ うまい〜、ルーシヤス！ 偉いぞ！ ヴアゴー（處女宮）の前掛
のそこへ落ちた。パラスさんへ遣んな、それは。

マーカ 兄さん、わたしは月から一哩ツてそこを覗きました。あなたの願書は、今
頃は、もうジュピターさんのところへ達いてますよ。

タイタ やッ！ バブリヤス、バブリヤス、とんだことをしッちまつたねえ！ あれ、
見な、あれを！ トーラス（牡牛宮）の角が一本射落されてしまつたよ。

マーカ こりやいゝ慰みでした。バブリヤスが射つた時にブル（金牛宮）めが傷を受
けたんで、エーリーズ（白羊宮）へいやといふほどぶツつかつたんです。で、
あの白羊の角が二本ともローマ宮中へ落ちましたよ。それを拾ふ者は后
の奴隷より外にある筈はありません。后が笑つて、さ、早くそれを帝へ
献上しなけりやいけないとムーアに言つてますよ。

タイタ そりやいゝ。神よ、帝に悦びを與へたまへだ！
道化役の田舎者が手提げ籠に二羽の鳩をいれて持つて出
ろ。

道化 あ、知らせだ！ 天からの知らせだ！ マーカス、飛脚が来たよ。……こら、
何の報告だ？ 手紙を持つて来たか？ え、お裁きが願へるか？ 大神は
何とおほせられた？

道化 さア！ お上からは……まだどうといふお沙汰もござえませんがね、い

づれその、お裁きは、次ぎの週間でござえますべえ。

原文では、タイタスが「ジュピターは何とおほせられた？」と問ふ。すると、道化役が聞きちがへて「O! the gibbet-maker, &c.」と答へる。すなはち Jupiter を gibbet-maker と聞きちがへて見當ちがひの返辭をする事になつてゐる。「ヤット・マスター」とは獄吏のことである。例の語呂にもとづく滑稽なのだ、いかにも無理な語呂で、何等のなかしみも沸かない。しかも何として邦語に翻譯しやうがないから、此答へだけは、譯と原文とは意味が少々異つたものになつたのを断つておく。

タイタ いや、ジュピターさんは何といはれたと聞くのだ?

道化 やれ〜! わし、そのジュピターさんとかは存じましねえ、つひぞ一しよに飲んだことがねえですからね。

タイタ だつて汝はお使ひぢやアないか?

道化 へい、さよです。鳩ツ子を持つて行きますので。

タイタ 天から來たらんだらう?

天から? うんね、とんでもねえこつて。まだ若えのでござえますだから、今ツから天なんかへ押掛けてゆきたかアありませんねえ。なアに、わし「民護官」さんとこへ鳩ツ子オ持つてめえりますよ、叔父貴がお直參の方のお一人と喧嘩アしまして、訴訟になつてゐるでござえますから。

マーカ そりやちやうどい。この男に、あなたからだといつて、其鳩を献上させて、帝へあなたの口上を言はせるとい。

タイタ ころ、汝はい、具合に帝へ口上を述べることが出来るか?

道化 どういたしまして、い、具合に食ふことなんかアとつても一生中に出來ッことはござえませんや。

タイタ やい、ころ、こゝへ來い。もう彼れ此れするにやア及ばん、其鳩を帝へさし

あげる。おれからだといへば、キツと正義のお裁きをして下さる。……まで。とにかく骨折賃をやる。……筆とインキをくれ。……こら、汝、いゝ具合に、儀式通りに請願をすることが出来るか？

道化 へい。

タイタ

おや、これが請願書だ。帝が出られたら、先づ其前へ往つて、膝を突く。

それから足先きをキツスする、それから鳩を献上する。それから御褒美頂戴といふ順序だ。おれがすぐ傍にゐてやるから、立派にやれ。

道化

かしこまりました。御心配なせえますな。

タイタ

こら、小刀を持つてるか？ さ、見せろ。……マークス、これを其口上の中へ包み込んでくれ、下賤な請願人のらしくおまひが書いたんだから。……そ

道化

れを帝へ渡したら、おれの邸へ来て、帝が何といはれたかを話すんだ。御機嫌さまよろしう！ 承知しました。

タイタ

さ、マークス、ゆかう。……パブリヤス、従いて来い。
入る。

第四場 同處 帝宮の前

サタアナイナス、タモーラ、デミトリヤス、カイロン、貴族ら並びに其他出る。サタアナイナスは手にタイタスらが放つた箭を持つてゐる。

サタア

貴族たち、何といふ無禮、不埒だ！ ローマの帝にして斯んな反抗に、斯んな威嚇に累はされたことが曾てあつたか？ 公平に政治を行つてゐるのに、こんなな輕蔑をしをるのか？ 貴族たち、いかに煽動者共が謂はれないことを民衆の耳に囁いて、平和を亂さうとしをつたとて、汝たちや

神々が御承知だ、アンドロニカスの亂暴な倅共に對して下した制裁は飽迄も國法に合つたことなのだ、悲歎の餘りに氣がちがつたからッて、それがどうだ？ 彼れの復讐や發作や狂暴や毒舌を寛恕すべき理由はないぢやないか？ 彼れは救助を天に求めて、或ひはジョーヴへ、或ひはマーキュリ―へ哀訴狀を書きをつた。(と箭に附けた書狀を見ながら) これはアポローへだ。これはマーズへだ。こんなものがローマ市内を飛び廻つたら、嚙國の爲にいいことだらう！ え、こりや元老連の誹謗でなくて何だ？ 到る處に予の無道を觸れ散らすものでなくて何だ？ なア、貴族たち、けつこうなこつた！ ローマにや政道はないといふも同然だ。いや、おれが生きてゐる以上此にせ氣ちがひめの亂暴を赦しちやおかんど。サタアナイナスが健康である限り、正義の神は生きてゐるぞ、若し寢てゐるりやおれが起す、起きた以上どんな傲慢な謀叛人も忽ち其首を失ふであらうぞ。

タモラ

皇帝陛下、命の君とも心の主とも崇めまゐらせまするいとしいサタアナイナスさま、まア、お氣をお鎮の遊ばして、老人タイタスの此不埒は、全く其勇敢な子供らを失ひました悲歎の餘りだとお寛恕遊ばして、よしや不敬を働きましたにもせよ、かやうな賤しい者乃至善良な者は、お罰し遊ばすよりも慰めてお遣しになるがようございます。(と言ひつゝ、小聲で傍白) お聰明なタモーラさまとしては、まアこんな風に、何事も口車で、うまアく言ひ廻しておいたはうがい。……どうだ、タイタス、たしかに窮處へ達いたらう？ もう、生死の瀬戸際だよ。アーロンに脱落さへなけりや何事も上首尾だ。投錨はもう濟んだ。……

道化役の田舎者出る。

道化 おや、何か用かい？ わたしに？
へい、お旦那さまがお帝室さままでござらつしやりまするなら。

タモラ わたしは后だよ。帝はあそこにおいでになる。

道化 あ、あの人だ。……神さまもセント・スチーヴンさまも、あんな様へ良い日を獻げて下さいませ！……へい、お手紙と二羽の鳩ッ子オ持つてめえりまし
た。

サタア ナイナス 受取つて書面を讀んで、赫と怒る。

サタア こら、こいつを引ッたてゝ行つて、すぐに絞り首にしろ。

道化 幾ら貫へますだかね？

タモラ こら、其方は絞罪になるのだ。

道化 えッ！ しばり首！ はれまア、ぢや、おれ、わざ／＼結構な目に逢ふた
め

に、此首根ッこオ持つて來たッか！

警護されて入る。

サタア 無禮千萬な、逆も堪忍の出來ん大不埒だ！ こんなけしからん大悪事を赦

しておくわけにはいかん！ 此案はどこから出たか解り切つてゐる。も

う忍耐は出來ん！ 弟を殺したから、國法によつてあの謀叛人の倅共を誅

戮したんだ。それをおれが不正に虐殺でもしたやうに思ひをつて！ や

い、あの奴めを、頭髪を掴んで、引摺つて來い。齡も官職も斟酌するに及ば

ん。高慢にも嘲弄しをつた返報に、死刑に處してくれ。狡猾な氣ちが

ひ爺め、おれを助けて帝位に即かせをつたのは、つまり、ゆく／＼は自己が

此國をも俺をも支配しようといふ爲であつたのだ。……

イミリヤスがあわたゞしく出る。

イミリヤス、何事が起つた？

イミリ 貴族がた、御軍備をなさい！ ローマに前例のないほどの大事ですぞ。ゴ

ツスが大軍を召集し、劫掠を目的とする果敢のともがらをひきゐて、猛然と

して今にも進撃してまゐります。指揮はアンドロニカスの倅ルーシヤス

です。彼れは、復讐のために、コリオレーナスがした通りの事をして見せると威嚇してをります。

サタア えッ！ あの慄悍なルーシヤスがゴッス軍の大將だ？ それを聞くと、おれは、まるで霜に逢つた花や暴風雨に打たれた草のやうに勢ひが脱けて、首が垂る。もうこちとらの下り坂だ。あれは平民共に非常に愛されてゐる。折々おれ自身で聞いた……平人姿で忍び歩きをしてゐた時に……平民共が、ルーシヤスの追放を冤だ、不法だと非難して、彼れをローマ帝にしたいなんぞといつてをるのを。

タモラ (儼然なつて) まア、何故お怖れなさるの？ 市を守るに足る立派な兵があるぢやありませんか？

サタア だつて、市民はルーシヤスに最賈してゐるから、彼れを助けて謀叛するだらう。

タモラ

陛下、帝といふお名にふさはしい御料簡をお持ち遊ばせ。え、蝸が飛び込んだ爲に太陽の光りが薄れるといふやうなことがありませんか？ 鷺は、小鳥が何を囀らうと、聞き流してゐます、いざとなりや翼を擴げて其歌を止めさせるに手問ひまは要らないからです。氣ちがひめいた市民なんかは、鷺のあなたに取つては、小雀同然ぢやありませんか？ 御安心なさいまし。ねえ、陛下、わたしがあのアンドロニカスを口先きで旨く欺しますよ、蜜よりも甘い言葉で、けれどもそれは魚を恠我させる香ばしい餌よりも、羊を食傷させる蜜塗花よりも一層危険な毒なのです。

サタア

だつて、やつは中々こちとらの爲にルーシヤスを和めることなんかしてくれまい。

タモラ

いゝえ、わたくしが頼めば、しませう。いろく、慄ひ附くやうな旨い約束を並べて、先づ彼れの耳を魅惑しますから。さうすれば、たとひ心がどん

なに頑固ぐわんこでありまして、又、其耳そのみみがどんなに聳しひてをりませうとも、此舌このしたで耳みみをも心こころをも服従ふくじゆうさせてしまひますよ。(イミリヤスに) さ、おまひさんは、其以前まへに、帝ていからの使節しせつとしてルーシヤスの陣ちんへ往いつて、帝ていが開戦前かいせんぜんに一應いちおう協議けいぎをお求めになる由よしを傳つたへて、日時にちじを約やくして、彼れかの父ちちアンドロニカスの家いへで會合くわいがふする段取たんどりにしておゝきなさい。

サタア
イミリヤス、立派りっぱに此使命このしめいを果はたしてくれ。安全あんぜんを保證ほしょうするための人質ひとじちが欲しいといつたら、どういふ條件てうけんでも容いれるといつてくれ。

イミリ
御命令ごめいれい通りに、きつと執行しつかういたしまする。

イミリヤス 入はいる。

タモラ
では、わたくしはアンドロニカスを訪たづねまして、手練しゆれんを盡つくして打和うちやはらげて、傲慢ごうまんなルーシヤスめを慄悍へうかんなゴッス人の仲間なかまから引き抜ぬかせませう。ですから、あなた、そんなにふさがないでおいで遊あそばせ。萬事ばんじわたくしにお任まかせ。

サタア
せなさいまし、決して御心配遊ごしんはいあそばすなよ。
ちや、どうか旨うまく彼奴あねを説といて、安心あんじんの出來できるやうにして下ください。

入はいる。

* * * * *

第五幕

第一場 ローマ附近の平原

喇叭の音。ルーシヤスとゴッス軍が出る。鼓手、旗手従ふ。

ルーシ

老功の勇將達よ、信頼する戦友諸君よ、只今、大ローマ市から來狀がありました。彼等市民は甚しく其帝を憎んでゐるので、一日も早くわれくに會ひたいと申して來ました。さういふわけですから、王侯諸君、諸君は其爵の證する如くに、蒙られた屈辱を王侯らしく赫怒してお罰なさるがいゝ。ローマが諸君に蒙らせた屈辱を其三層倍にもして償はせなさるが



いゝ。

甲 ゴツス
將

大アンドロニカスの勇敢なる御令息、嘗てはわれくの恐怖であり、今はわれくの慰安たる御親父の功績は極めて立派なものでありましたに、忘恩のローマは、甚しい侮蔑を以てして之れに報いた。併し御安心なさい、われくはどこへでもあなたの指揮のまゝに従いてゆきます、恰も熊蜂が盛夏の日に其親分にひきあられて花野原へ出動するやうに、さうしてあの憎むべきタモーラめを誅戮します。

タモーラはゴツスの前王の妃なのだ、沙翁の作以前、作に現はれた處では、アロンと姦通した結果、其夫王を毒殺した。沙翁は其筋を當時の看客が知つてゐるものとして其儘傳襲したものと見える。

皆 ゴツス
々

われくとても同感です。

ルーシ ありがたう、謹んで感謝します。……(一方を見て) おや、強健さうなゴツスの一將校が何者かを引ッ立て、來ますぞ。

ゴツスの一將校(乙)がアロンを引ッ立て、出る。
アロンは前の場の赤兒を抱いてゐる。

乙 將



名高いルーシヤスどの、自分は或廢寺を一覽に及ばうと存じて、わが軍からつい立ち離れて、右の毀れかゝつてゐる建物を熱心に觀てゐますと、石墻の下で小兒の哭く聲が聞えました。で、其聲のするはうへ參らうとすると、其赤んぼを、ま、こんな風のことをいつてあやしてゐるのが聞えました。「泣くなく、半分はおれ、半分はお袋に似た黒んぼめ、汝がそんな色でなく、阿女の面だけ

を貰つて、素性の解らんやうに生れをりやア、帝王様になれたんだものを！ だが、父牛も母牛も眞ッ白けであつて見りやア、石炭色の仔羊は生れん。泣くなく！」それから赤んぼを叱つて「だから據ろなく友達のゴツスのとこへ連れてゆくんのだ。汝を后の子だと聞きや大切にしてくるだらうから。」自分はそれを聞くと否や、劍を抜いて、急に躍りかゝつて、取りおさへて、連れて來たのです、御所要に應じて御處分なさるやうにと。

ルーシ お、お骨折でした、ありがたう！ 其奴は欺いて、父アンドロニカスの手を奪つた人面の惡魔です。そいつがあのだモーラの目を悦ばした眞珠なのです。さうして其邪淫の結んだ果實がそれです。……やい、白壁眼め、汝は其母にやう似た惡魔面の餓鬼をどこへ連れてゆかうとするのだ？……なぜ返辭をしない？ こら！ 聾か？ 一言もいはんな？……兵士、繩を！ その木へ吊り下げろ。その傍へ此私生兒をも。

ア—ロ 此子供に觸つちやいかん。こりや帝王の子だ。

ルーシ 親父に似過ぎてゐるから、善人になりさうもない。先づ其赤んぼを吊り下げて蹴くのを其奴に見せて、親心の苦痛を覚えさせる。梯子を持つて来い！

兵卒が梯子を持つて来ると、ア—ロンをそれへ登らせようとする。

ア—ロ ルーシヤス、其子供は助けて、おれからだといつて后へ届けてくれ。さう

してくれりやア、吃驚りする事をいろく話してやる。それを聞きやおまひの利益になる。が、助けなけりや、もう自暴自棄だ！「どいつもこいつも復讐にとツつかれて、くたばつてしまやアがれ！」といふばかりだ。

ルーシ ま、いつて見る。若しその言つたことが俺の氣に入りやア、此子供の命を助けて養育させてやる。

ア—ロ なに、おまひの氣に入りやだ！ 氣に入るところかい、俺の話聞いたら、

おまひは大苦しみをするだらう。おれの話すのは人殺しや強姦や虐殺や眞ッ黒な夜中の仕事や忌はしい、穢らはしい、聞いたゞけでも可哀さうな、しかし其實際は更に一層むごたらしい悪だくみや裏切なのだ。が、それが皆な埋もれツちまはア、おまひが其子を助けると誓言しない以上、おれは口外しないで死んぢまふから。

ルーシ こら、思つてゐることを言へ、子供の命は助けてやるから。

ア—ロ 誓言しな、さうすりや言ふから。

ルーシ 誓言のしやうがないぢやないか？ 汝はどんな神をも信じぢやゐないぢやないか？ 何を據るにして誓言を信じる？

ア—ロ さうさ、おれは何神をも信じぢやゐない。が、それがどうした？ おまひが宗教信者で、良心とかいふのを有つてをり、それから法王がこさへた手